

令和7年度

教 育 要 項

奈良県立医科大学大学院
医学研究科（博士課程）

目 次

大学院医学研究科ポリシー	2
--------------	---

I 履修要項	3
--------	---

- 1 修了要件
- 2 履修単位
- 3 授業科目の履修方法
- 4 授業の方法
- 5 単位修得の認定
- 6 研究指導
- 7 中間評価の導入
- 8 最終試験
- 9 早期修了に関する要項
- 10 学位審査に関する要項

II 科目概要	15
---------	----

- 1 大学院研修プログラム
- 2 共通科目講義日程
- 3 科目一覧
- 4 科目概要
- 5 学位論文審査日程

奈良県立医科大学大学院医学研究科ポリシー

ディプロマポリシー

(博士課程)

本大学院に4年以上（優れた研究業績を上げた者については3年以上）在学し、指導教員の研究分野に所属して研究指導を受け、講義、演習、実験・実習の34単位以上を修得し、博士論文の審査および最終試験に合格することが、課程の修了と学位授与の必要条件である。

1. 医学に関する高度な学識と研究能力を修得し、未開の領域を切り開く能力と意欲が身についている。
2. 先端医学・医療に貢献できる高度の専門的な能力が身についている。

カリキュラムポリシー

(博士課程)

1. 大学院研修プログラムの受講と学位公聴会の聴講を通して、高度な医学専門知識を修得し、専攻科目に関連する幅広い知識、技能を身に付けるための必要なカリキュラムを配置する。
2. 2年次終了時の中間報告会において、研究評価を行うことで、最終年度での研究成果のとりまとめに資する。
3. 研究指導教員および研究指導補助教員による個別指導カリキュラムによって、自立した研究活動が行える能力を培う。

アドミッションポリシー

1. 独創的な発想と科学的探究心に富み、豊かな人間性をもつ人
2. 医学、医療の分野において、高度の知識、技能を習得し、地域社会に貢献する人
3. 国際的な視野に立ち、高度の研究を通して医学の発展に寄与する人
4. 研究、教育、臨床のいずれの分野においても指導者となる志をもつ人

奈良県立医科大学大学院医学研究科（博士課程）履修要項

1 修了要件

本大学院に4年以上（優れた研究業績を上げた者については3年以上）在学し、授業科目について34単位以上修得し、かつ、学位論文を提出しその審査及び最終試験に合格しなければならない。

2 履修単位

修了要件に必要な34単位以上の履修は、次のとおり修得すること。

○ 主科目（学位論文作成の基本となる授業科目）

講 義	2単位以上
演 習	2単位以上
実 験 ・ 実 習	12単位以上

○ 主科目以外の科目

選択科目（講義又は演習）	16単位以上 ※1
共 通 科 目	1単位以上
医学研究セミナー	1単位以上

※1 選択科目の選択にあたっては、あらかじめ主科目の研究指導を担当する教員の指導を受けて指定の期日までに別表により、選択する科目を学長に届け出るものとする。

3 授業科目の履修方法

原則として、第3学年までに修得すべき単位を修得し、研究課題に即した研究指導を受け、かつ、論文作成等のための研究活動を行うものとする。

- 主 科 目 学位論文作成の基本となる授業科目である。主科目の講義には、大学院研修プログラム ※2及び学位公聴会 ※3の聴講を含む。
- 選 択 科 目 主科目における研究遂行上、必要となる知識、技術の補完を目的とする授業科目である。
- 共 通 科 目 幅広い知識を修得してもらう目的で設けた授業科目である。本学大学院修士課程から同博士課程に進学した者は受講を免除する。
- 医学研究セミナー 学内で開催されている特別講演等の受講（10回）別添の医学研究セミナー受講票による。

※2 大学院で研修を遂行するために必要である基本的概念、方法論を講義する。入学時（4～6月）に行われ、必修である。この講義は、1単位とし主科目の講義の単位として計算される。

なお、この講義は全てに出席することが義務づけられている。やむをえない事由で欠席する場合、事前に文書で届け出て承認を得る必要がある。

ただし、本学大学院修士課程から同博士課程に進学した者は受講を免除する。

- ※3 第1学年で主科目または選択科目の公聴会に3回以上出席し、主科目担当教員にレポートを提出する。主科目、選択科目の公聴会が3回以上ない場合には他の科目の公聴会に出席して、レポートを提出してもよい。公聴会の単位は主科目の講義の中に含める。

4 授業の方法

- (1) 授業は、講義、演習及び実験実習の併用により行う。
- (2) 講義、演習及び実験実習には、当分の間、それぞれ次に掲げる場合も含むことができる。
 - ・ 講 義 学位公聴会の聴講、抄読会、臨床報告会、学術集談会、学会等の出席
 - ・ 演 習 抄読会における抄読担当、臨床報告会における報告担当、学術集談会・学会等における研究発表担当
 - ・ 実験実習 臨床検査、手術(見学を含む。)、診療、現地調査、剖検(見学を含む。) その他これらに類する行為

[単位の計算方法]

講義は、15時間の講義で、1単位とする。

演習は、30時間の演習で、1単位とする。

実験実習は、45時間の実験実習で、1単位とする。

5 単位修得の認定

履修した授業科目の単位修得の認定は、当該授業科目の担当教員が行い、学年末に学長に報告するものとする。

6 研究指導

- ① 学生は、学位論文にかかる研究及び論文作成等に当り、主科目の研究指導を担当する教員の指導を受けるものとする。指導教員は学年末に研究評価を行う。(様式1) 学生は、2年修了時及び単位修了時に研究指導評価についてアンケートを提出する。(様式2)
- ② 教育研究上有益と認められるときは、主科目を変更することができる。この場合において、主科目の研究指導を担当する教員は、当該教員との協議を経て、学長に届け出なければならない。
- ③ 学生は第3学年以降において、あらかじめ主科目の研究指導を担当する教員の指導を受けて研究課題を学長に届け出るものとする。

7 中間評価の導入

3年はじめに研究報告会を行い、形成的評価を受ける。

8 最終試験

最終試験は、学位論文を中心として、主科目の研究指導を担当する教員が口頭又は筆記により行う。

附 則

この要項は、令和2年4月1日から施行する。

(様式1)

大学院生の研究能力評価表

専攻 _____ 科目 _____

研究指導教員名 _____

評価年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

大学院生 _____ 学年 _____ 氏 名 _____

項 目	評価
1 研究企画能力	
2 研究調査能力	
3 研究実施能力	
4 論文理解力	
5 プレゼンテーション能力	
6 抄録作成能力	
7 論文作成能力	
8 総合評価	

上記それぞれの各項目の中で院生の該当する項目について5段階評価をしてください。

A：特にすぐれている B：すぐれている C：ふつう D：乏しい E：特に乏しい

(様式2)

院生による研究指導評価表

研究指導教員氏名 _____

大学院生 _____ 学年 _____ 氏 名 _____

項 目	評価
1 研究のバックグラウンドが理解できるように説明を受けたか	
2 論文の読み方、収集、活用方法の指導を受けたか	
3 研究の方法に関して具体的な指導を受けたか	
4 プレゼンテーションの指導を受けたか	
5 論文作成の指導を受けたか	
6 研究従事時間は十分であったか	
7 総合的に見て研究指導は的確であったか	

上記それぞれの各項目の中で院生の該当する項目について5段階評価をしてください。

A：非常によい B：ややよい C：ふつう D：やや悪い E：非常に悪い

その他の要望

(_____)

(様式3)

医学研究セミナー受講票

提出日 _____ 年 ____ 月 ____ 日

学籍番号		学年	年
氏 名			

受講したセミナーの受講日、講演題目を全て記入してください。

	受 講 日	講 演	講演開催教室 主 任 印
1	年 月 日		
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

学生本人において保管し、10回の受講が修了すれば教育支援課へ原本を提出してください。

奈良県立医科大学大学院医学研究科博士課程早期修了に関する要項

(趣 旨)

第1条 この要項は、奈良県立医科大学大学院学則第13条第1項の規定に基づき、奈良県立医科大学大学院医学研究科（以下「医学研究科」という。）における早期修了に関し必要な事項を定めるものとする。

(資格要件)

第2条 在学期間を短縮し早期修了を申請することができる者は、次の各号のすべてを満たす者とする。

- 一 博士課程の3年終了時に、必要な単位を修得もしくは修得見込みの者
- 二 長期履修が認められていない者
- 三 入学料及び授業料の未払いが無い者
- 四 指導教員が推薦する者
- 五 優れた業績を上げた者

(優れた業績を上げた者)

第3条 前条第1項第7号の優れた業績を上げた者とは、次の各号のすべてを満たすこととする。

- 一 主論文は、申請者が単独の筆頭著者であること。
 - 二 主論文が英文誌で、Journal Impact Factor Quartile Q2 以上又は当該分野において極めて評価の高い専門学術誌に掲載されていること。
 - 三 参考論文の1編が専門学術誌の論文検索サイト (PubMed, Science Citation Index Expanded, SciFinder Scholar のいずれか) に掲載されていること。
- 2 本学大学院修士課程修了後、ただちに同博士課程へ進学し、かつ本学大学院修士課程と同博士課程を通じて一貫した研究を行ったと認められる者は、前項第3号の要件は免除することとする。

(申請手続)

第4条 早期修了を希望する者は、早期修了申請書(様式1)に次の各号の書類を学長に提出しなければならない。

- 一 指導教員の推薦書
- 二 研究業績目録
- 三 主論文
- 四 参考論文
- 五 分担内容報告書(共著者がいる場合)
- 六 同意書(共著者がいる場合)

(資格審査)

第5条 第2条の資格審査は、大学院医学研究科博士課程運営委員会において行い、その結果を同課程委員会に報告するものとする。

2 大学院医学研究科博士課程運営委員会で資格の可否が決定しない場合は、同課程委員会で審査するものとする。

（早期修了の認定）

第6条 早期修了の資格が認定された者に対しては、その後の学位審査等については、一般の学生と同様に取り扱うものとする。

（早期修了の時期）

第7条 早期修了の時期は、3年次終了時から4年次終了時までの所定の時期とする。

（雑 則）

第8条 この要項に定めるものの他、早期修了に関する必要な事項又は適用上の疑義については、大学院博士課程委員会において審議する。

附則

（施行期日）

1 この要項は、令和5年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 第3条第1項第2号の規定は、令和5年4月1日以降に3年生になる者に適用し、同日前に3年生である者については、なお従前の例による。

（関係書類の廃止）

3 次の各号に掲げる早期修了に関する認定基準等については、廃止する。

一 大学院博士課程早期修了の認定基準（平成22年2月4日 教育研究審議会決定）

二 本学大学院修士課程修了後から同博士課程に進学した者に係る取扱いについて（平成22年2月4日 教育研究審議会決定）

三 大学早期課程修了の申請期間について（平成22年12月14日 大学院医学研究科博士課程委員会承認）

様式1（第4条関係）

早期修了申請書

奈良県立医科大学大学院医学研究科学位審査に関する要項

(目的)

第1条 奈良県立医科大学学位規則（以下「学位規則」という。）第14条の規定に基づき、大学院医学研究科における学位審査に関して必要な事項を定めるものとする。

(資格要件)

第2条 学位規則第3条第1項の規定による学位（以下「博士（甲）の学位」という。）を請求することができる者は、本学大学院医学研究科博士課程（以下「博士課程」という。）に在学し、奈良県立医科大学大学院学則（以下、「学則」という。）第8条第1項第一号に定める単位を修得した者又は修得見込みの者とする。

2 第1項に規定するもののほか、博士（甲）の学位を請求することができる者は、博士課程に4年以上在学し、学位未取得で所定の単位のみ修得して退学した者で、退学後4年以内（ただし、在学中に留年期間がある者については、4年から当該留年期間を控除した年数以内とする。また、奈良県立医科大学大学院医学研究科長期履修に関する規程第4条の規定による長期履修の許可（以下「長期履修の許可」という。）を受けた者については、4年から当該長期履修期間を控除した年数以内とする。）の者とする。

3 修士の学位を請求することができる者は、本学大学院医学研究科修士課程（以下「修士課程」という。）に在学し、学則第8条第1項第二号に定める単位を修得した者又は修得見込みの者とする。

4 学位規則第3条第3項の規定による学位（以下「博士（乙）の学位」という。）を請求することができる者は、本学大学院の入学試験に準じて行われる学力試験に合格した者とする。ただし、博士課程に在学歴のある者は学力試験を免除することとする。

(資格審査)

第3条 前条の資格審査は、大学院医学研究科博士課程運営委員会（以下「博士課程運営委員会」という。）又は大学院医学研究科修士課程運営委員会（以下「修士課程運営委員会」という。）において行う。

(学位審査手数料)

第4条 第2条第2項及び第4項に該当する者は、公立大学法人奈良県立医科大学料金等規程に定められている学位審査料を予備審査後の所定の期日までに支払わなければならない。ただし、第2条第2項に該当する者で退学後1年以内に学位論文を提出する場合は、当該手数料を免除する。

(学位論文の要件)

第5条 博士（甲）の学位論文は、次の各号に定める要件をすべて満たすものとする。

- 一 学位を請求する者（以下「請求者」という。）が筆頭著者であること。
- 二 専門学術誌に公表又は受理されたものであること。なお、欧文、和文は問わない。

2 修士の学位論文は、請求者が筆頭著者であることとする。

3 博士（乙）の学位論文は、次の各号に定める要件をすべて満たすものとする。

- 一 請求者が筆頭著者であること。

- 二 専門学術誌に公表されたものであること。
- 三 学位論文掲載年の公表済直近5年平均のインパクトファクターが15点以上であること。
- 4 博士（甲）、修士及び博士（乙）の学位論文が共著論文の場合は、申請者分担内容報告書及び同意書を学位論文提出時に添付して提出することとする。なお、共著者数は、特に制限しない。
- 5 博士（甲）、修士及び博士（乙）の学位論文が equal contribution 論文の場合、次の各号の要件をすべて満たすものとする。
 - 一 当該論文の著者の欄に、複数の筆頭著者の equal contribution による仕事である旨が明記されていること。
 - 二 博士（甲）及び修士の学位論文にあつては、当該論文の equal contribution の著者が原則として2名以内であること。ただし、3名以上の場合は、博士課程運営委員会又は修士課程運営委員会において別途協議するものとする。
 - 三 博士（乙）の学位論文にあつては、当該論文の equal contribution の著者数に関わらず、博士課程運営委員会で別途協議するものとする。

（参考論文の要件）

- 第6条 博士（甲）の学位を請求する参考論文は、請求者が筆頭著者又は共著者とし、学位論文提出時に添付できるものとする。
- 2 博士（乙）の学位を請求する参考論文は、請求者が筆頭著者かつ学位論文掲載年の公表済直近5年平均のインパクトファクターが1点以上の論文であり、学位論文提出時に2篇以上添付するものとする。

（学位審査委員会）

- 第7条 学位論文の審査、最終試験及び博士（乙）の学位を請求する者の学力の確認は、学位審査委員会（以下「委員会」という。）で審査を行う。
- 2 請求者の研究指導教員は、3名の学位審査委員（以下「委員」という。）を大学院医学研究科博士課程委員会（以下「博士課程委員会」という。）又は大学院医学研究科修士課程委員会（以下「修士課程委員会」という。）に推薦（自己推薦も可）し、承認を得る。
- 3 委員会に学位審査委員長（以下「委員長」という。）を置くこととし、委員長は互選による。
- 4 本学に請求者の研究指導教員がない場合、医学研究科長が3名の委員を博士課程委員会又は修士課程委員会に推薦（自己推薦も可）し、承認を得る。
- 5 委員は、医学研究科の研究指導教員とする。ただし、請求者の研究指導教員を除き、当該学位論文の共著者は委員になることができない。また、3名の委員のうち主科目の研究指導教員は1名までとする。
- 6 委員長は、奈良県立医科大学の専任教授とする。ただし、請求者の研究指導教員及び当該学位論文の共著者は審査委員長になることはできない。

（予備審査）

- 第8条 第5条及、第6条及び第7条の要件を確認する予備審査は、博士課程委員会又は修士課程委員会において行い、学位論文の受理及び審査委員を決定する。
- 2 予備審査では、請求者の研究指導教員が学位申請者名、単位修了（予定）年月、学位論文タイトル、雑誌名及び審査委員名について説明する。

3 請求者の研究指導教員が不在の場合は代読を認めるが、疑義等が生じた際は次の各号のとおりとする。

一 博士（甲）及び博士（乙）の学位

次回の審査に持ち越す。

二 修士の学位

修士課程委員会で対応を検討のうえ審査を行う。

（学位公聴会）

第9条 請求者は、博士課程委員会又は修士課程委員会主催の学位公聴会でその内容を発表し、最終試験を受けるものとする。

2 学位公聴会は、委員長及び請求者の研究指導教員の出席を必須とする。それ以外の委員が欠席する場合は、事前に質問を委員長に提出し、委員長が代理質問することとする。

3 学位公聴会の議長は、博士課程運営委員会又は修士課程運営委員会の委員が務める。

4 公聴会において不測の事態が生じた場合は、議長に一任する。

（最終試験）

第10条 最終試験は、学位論文を中心とし、これに関する科目について口頭試問で行う。ただし、筆記試験を併せて行うことができる。

（委員会の開催）

第11条 委員会は、学位公聴会での請求者への質疑により、学位論文及び最終試験の適否を審査する。ただし、学位公聴会とは別に、委員会が請求者に質疑を要請し、その結果を審査の判断に使用することができる。

2 委員は、学位公聴会后、委員長に学位論文の適否を理由を付して報告する。

3 委員会の委員長は、博士（甲）及び博士（乙）の学位は3名、修士の学位は2名の委員が適とした場合は合格、その他の場合は不合格とし、審査要旨（500字程度）に当該審査結果及び理由を記載のうえ、次の各号のとおり報告する。

一 博士（甲）及び博士（乙）の学位

委員会の委員長は、本審査で審査結果及び審査内容を報告する。

二 修士の学位

委員会の委員長は、本審査までに審査結果及び審査内容を修士課程委員会の議長に報告し、同委員会の議長が本審査で審査結果及び審査内容を一括報告する。

4 審査結果が不合格であり、委員長が必要と認めた場合は、本審査の前に、委員による協議を行うことができる。

5 前項の協議の結果、不合格となった場合は、本審査は行わず、協議を継続する。委員長が必要と認めた場合は、公聴会での発表、学位論文の再提出を求めることができる。

（本審査）

第12条 博士（甲）及び修士の学位にあっては、課程の修了の可否、博士（乙）にあっては、論文審査の可否及び博士課程を修了した者と同等の学力を有する者であるかを本審査で審議する。

2 本審査は、前条第3項に規定する報告に基づき、博士課程委員会又は修士課程委員会において行い、

博士課程委員会規程第 5 条又は修士課程委員会規程第 5 条の規定に関わらず出席した委員の 3 分の 2 以上の賛成をもって可とする。

3 本審査の出席者は次の各号のとおりとする。

一 博士（甲）及び博士（乙）の学位

委員長及び請求者の研究指導教員は出席を必須とし、不在の場合は次回の審査に持ち越すこととする。ただし、やむを得ない事情の場合（急な疾病や忌引等）は、年度の最終の本審査に限り、博士課程委員会で対応を検討のうえ審査を行う。

二 修士の学位

委員長及び請求者の研究指導教員の出席は必須としないが、疑義があった場合は、修士課程委員会で対応を検討のうえ審査を行う。

4 本審査で否決された場合は、次の各号のとおり対応することとする。

一 研究科長は請求者の研究指導教員を含む 3 名の新たな審査委員候補を選出し、次回の博士課程委員会又は修士課程委員会で承認を受け、新審査委員会を設置する。

二 新審査委員会の審査委員長を置くものとし、審査委員長は互選による。

三 新審査委員会は審査委員全員出席のもと開催する。公聴会は再度行わないが、必要な場合は、請求者を新審査委員会の場に招き、質疑できるものとする。

四 新審査委員会の審査委員長は、審査結果を次回の本審査で報告する。

五 本審査の再審査においても否決された場合は、当該学位論文の審査は終了する。

（学位授与の取消）

第 13 条 学位規則第 11 条に規定する審議は、博士課程委員会規程第 5 条又は修士課程委員会規程第 5 条の規定に関わらず出席した委員の 3 分の 2 以上の賛成をもって可とする。

（論文提出時期）

第 14 条 博士課程に在学中の者が学位論文を提出できる時期は、3 年を経過した日以降で別に定める所定の期間とする。ただし、早期修了を許可された者は、2 年 6 月を経過した日以降で別に定める所定の期間とする。なお、休学期間は当該期間に含めないものとする。

2 修士課程に在学中の者が学位論文を提出できる時期は、入学後 1 年 8 月を経過した日以降で別に定める所定の期間とする。なお、休学期間は当該期間に含めないものとする。

（学位審査日程）

第 15 条 第 3 条、第 8 条、第 9 条及び第 12 条に定める審査は、博士課程委員会又は修士課程委員会が決定する所定の日程で行う。

（様式）

第 16 条 学位規則第 4 条の規定に定める学位論文審査願、論文目録、履歴書及び論文内容の要旨並びに学位規則第 9 条に定める奈良県立医科大学機関リポジトリ公開に関する同意書並びに本要項第 5 条第 4 項に規定する申請者分担内容報告書及び同意書は、別記様式第 1 号から第 7 号のとおりとする。

（研究報告会）

第 17 条 博士課程の学生は、学位請求までの所定の期日（通常は 3 年次）に、博士課程委員会主催の

研究報告会で、学位論文に係る研究内容の中間報告を行うものとする。

(細則)

第 18 条 この要項に定めるもののほか、必要な事項又は適用上の疑義については、博士課程委員会又は修士課程委員会において審議する。

附 則

(施行期日)

1 この要項は、令和 6 年 4 月 9 日から施行する。

(書類の廃止)

2 次の各号に掲げる学位審査に関する内規等については、廃止する。

- 一 奈良県立医科大学学位審査に関する内規
- 二 学位審査に関する申合せ
- 三 学位申請及び学位審査における共著論文の取扱いに関する申合せ
- 四 大学院医学研究科博士課程 equal contribution 論文の学位審査に関する取扱い
- 五 本学大学院修了者の学位論文審査手数料の免除について
- 六 論文博士（乙）に係る学位論文審査の受付けについての申合せ
- 七 大学院医学研究科博士課程学位審査法について
- 八 大学院医学研究科修士課程学位審査法について
- 九 学位審査法について

(経過措置)

3 平成 28 年 3 月 31 日現在で大学院医学研究科博士課程に在学しており学位未取得で所定の単位を修得して退学した者は、退学後 4 年以内は、第 5 条第 3 項第三号の規定は適用しない。また、上記の者は、退学後 4 年以内は、第 6 条の参考論文の要件について、第 6 条第 2 項を適用せず、請求者が筆頭著者又は共著者であり、学位論文提出時に 2 編以上添付するものとする。

令和7年度 大学院研修プログラム

1 日時：4月8日（火）10：20～17：50

2 プログラム内容

時 間	テ ー マ	担 当 者	場 所
10：20～10：40	学長講話	学長	畹傍山キャンパス講義棟1階 多目的中講義室104
10：40～10：45	大学院医学研究科の概要	研究部長	
10：45～11：15	研究倫理について	医の倫理審査委員長	
11：25～12：05	臨床研究に関わる倫理・法律等について	臨床研究センター教授	
13：05～13：25	教務ガイダンス	教育支援課	
13：25～14：10	文献検索などのIT利用について	附属図書館	
移 動 （40分）			
14：50～15：30 A班 15：40～16：20 B班 16：30～17：10 C班	R I 実験施設の概要と使用上の注意 化学物質の管理について	RI実験施設 准教授	総合研究棟5階
14：50～15：30 C班 15：40～16：20 A班 16：30～17：10 B班	組換えDNA実験施設の概要と使用上の注意	組換えDNA実験施設 准教授	基礎医学棟5階、総合研究棟4階
14：50～15：30 B班 15：40～16：20 C班 16：30～17：10 A班	動物実験施設の概要と使用上の注意 （バイオセーフティ、感染動物を含む）	動物実験施設 講師	総合研究棟1階
17：20～17：50	教務システム、統合ID、Microsoft365等 について ※本学に勤務されている方は受講不要	教育支援課	基礎医学棟5階

令和7年度 大学院（博士課程）共通科目講義日程

	日	時	授業形式	授 業 科 目 名	講 義 担 当 者
1	4月10日(木)	18:00～19:30	対面 場所：基礎第2講義室	研究遂行に関する法令① (カルタヘナ法)	金子准教授
2	4月17日(木)	18:00～19:30	オンライン	研究遂行に関する法令② (RI規制法)	菓子野准教授
3	4月24日(木)	18:00～19:30	オンライン	研究遂行に関する法令③ (動物愛護法等)	米田講師
4	5月8日(木)	18:00～19:30	オンライン	研究遂行に関する演習 (緊急時の処置、実験計画書作成法等)	金子准教授
5	5月15日(木)	18:00～19:30	オンライン	医療英語	Bolstad教授
6	5月22日(木)	18:00～19:30	オンライン	英語で論文を書く意味とその書き方	森准教授
7	5月29日(木)	18:00～18:45	オンライン	フリーエ変換が生み出すデジタル技術	川口講師
8		18:45～19:30	オンライン	研究における数理モデルの利用法	高木講師
9	6月5日(木)	18:00～19:30	オンライン	研究におけるデータ収集と統計処理について	周藤准教授
10	6月12日(木)	18:00～19:30	オンライン	医の倫理学	池邊准教授

令和7年度 大学院医学研究科（博士課程） 科目一覧

○選択科目（16単位以上：講義2単位、演習2単位）

専門科目区分	No.	科 目 名	専門科目区分	No.	科 目 名
I 社会・保健・ 健康医学	I-1	疫学 講義	II 器 官 機 能 ・ 病 態 制 御 医 学	III-1	循環器病態制御医学 講義
	I-2	疫学 演習		III-2	循環器病態制御医学 演習
	I-3	公衆衛生学 講義		III-3	腎臓病態制御医学 講義
	I-4	公衆衛生学 演習		III-4	腎臓病態制御医学 演習
	I-5	法医学 講義		III-5	呼吸器病態制御医学 講義
	I-6	法医学 演習		III-6	呼吸器病態制御医学 演習
	I-7	MBT学 講義		III-7	血液病態制御医学 講義
	I-8	MBT学 演習		III-8	血液病態制御医学 演習
	I-9	医療情報・病院管理学 講義		III-9	消化器病態・代謝機能制御医学 講義
	I-10	医療情報・病院管理学 演習		III-10	消化器病態・代謝機能制御医学 演習
II 生 体 情 報 ・ 防 御 医 学	II-1	生体高分子学 講義	III 器 官 機 能 ・ 病 態 制 御 医 学	III-11	糖尿病・内分泌内科学 講義
	II-2	生体高分子学 演習		III-12	糖尿病・内分泌内科学 演習
	II-3	分子・細胞動態学 講義		III-13	臨床神経筋病態学 講義
	II-4	分子・細胞動態学 演習		III-14	臨床神経筋病態学 演習
	II-5	相分離生物学 講義		III-15	消化器機能制御医学 講義
	II-6	相分離生物学 演習		III-16	消化器機能制御医学 演習
	II-7	分子生体構造科学 講義		III-17	脳神経機能制御医学 講義
	II-8	分子生体構造科学 演習		III-18	脳神経機能制御医学 演習
	II-9	機能形態学 講義		III-19	循環・呼吸機能制御医学 講義
	II-10	機能形態学 演習		III-20	循環・呼吸機能制御医学 演習
	II-11	脳神経生理学 講義		III-21	運動器再建医学 講義
	II-12	脳神経生理学 演習		III-22	運動器再建医学 演習
	II-13	生体機能制御機構学 講義		III-23	スポーツ医科学 講義
	II-14	生体機能制御機構学 演習		III-24	スポーツ医科学 演習
	II-15	老化生物学 講義		III-25	女性生殖器病態制御医学 講義
	II-16	老化生物学 演習		III-26	女性生殖器病態制御医学 演習
	II-17	生体防御・修復医学 講義		III-27	視覚統合医学 講義
	II-18	生体防御・修復医学 演習		III-28	視覚統合医学 演習
	II-19	微生物学 講義		III-29	発達・成育医学 講義
	II-20	微生物学 演習		III-30	発達・成育医学 演習
	II-21	免疫学 講義		III-31	発生・発達医学 講義
	II-22	免疫学 演習		III-32	発生・発達医学 演習
	II-23	情報伝達薬理学 講義		III-33	精神医学行動神経科学 講義
	II-24	情報伝達薬理学 演習		III-34	精神医学行動神経科学 演習
	II-25	分子腫瘍病理学 講義		III-35	皮膚病態医学 講義
	II-26	分子腫瘍病理学 演習		III-36	皮膚病態医学 演習
	II-27	発生・再生医学 講義		III-37	泌尿器病態機能制御医学 講義
	II-28	発生・再生医学 演習		III-38	泌尿器病態機能制御医学 演習
	II-29	血栓止血先端医学 講義		III-39	前立腺小線源治療学 講義
	II-30	血栓止血先端医学 演習		III-40	前立腺小線源治療学 演習
	II-31	応用医学・医療学 講義		III-41	耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学 講義
	II-32	応用医学・医療学 演習		III-42	耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学 演習
	II-33	循環器システム医科学 講義		III-43	画像診断・低侵襲治療学 講義
	II-34	循環器システム医科学 演習		III-44	画像診断・低侵襲治療学 演習
III 器 官 機 能 ・ 病 態 制 御 医 学	III-45	放射線腫瘍学 講義		III-45	放射線腫瘍学 講義
	III-46	放射線腫瘍学 演習		III-46	放射線腫瘍学 演習
	III-47	侵襲制御・生体管理医学 講義		III-47	侵襲制御・生体管理医学 講義
	III-48	侵襲制御・生体管理医学 演習		III-48	侵襲制御・生体管理医学 演習
	III-49	臨床神経モニター学 講義		III-49	臨床神経モニター学 講義
	III-50	臨床神経モニター学 演習		III-50	臨床神経モニター学 演習
	III-51	総合臨床病態学 講義		III-51	総合臨床病態学 講義
	III-52	総合臨床病態学 演習		III-52	総合臨床病態学 演習
	III-53	口腔・顎顔面機能制御医学 講義		III-53	口腔・顎顔面機能制御医学 講義
	III-54	口腔・顎顔面機能制御医学 演習		III-54	口腔・顎顔面機能制御医学 演習
	III-55	救急病態制御医学 講義		III-55	救急病態制御医学 講義
	III-56	救急病態制御医学 演習		III-56	救急病態制御医学 演習
	III-57	病理診断学 講義		III-57	病理診断学 講義
	III-58	病理診断学 演習		III-58	病理診断学 演習
	III-59	腫瘍薬物治療学 講義		III-59	腫瘍薬物治療学 講義
	III-60	腫瘍薬物治療学 演習		III-60	腫瘍薬物治療学 演習
	III-61	リハビリテーション医学 講義		III-61	リハビリテーション医学 講義
	III-62	リハビリテーション医学 演習		III-62	リハビリテーション医学 演習
III 器 官 機 能 ・ 病 態 制 御 医 学	III-63	臨床検査医学 講義		III-63	臨床検査医学 講義
	III-64	臨床検査医学 演習		III-64	臨床検査医学 演習
	III-65	血液・血流機能再建医学 講義		III-65	血液・血流機能再建医学 講義
	III-66	血液・血流機能再建医学 演習		III-66	血液・血流機能再建医学 演習
	III-67	感染病態制御医学 講義		III-67	感染病態制御医学 講義
	III-68	感染病態制御医学 演習		III-68	感染病態制御医学 演習
	III-69	臨床実証医学 講義		III-69	臨床実証医学 講義
	III-70	臨床実証医学 演習		III-70	臨床実証医学 演習
	III-71	先端画像下治療開発応用学 講義		III-71	先端画像下治療開発応用学 講義
	III-72	先端画像下治療開発応用学 演習		III-72	先端画像下治療開発応用学 演習
	III-73	陽子線腫瘍学 講義		III-73	陽子線腫瘍学 講義
	III-74	陽子線腫瘍学 演習		III-74	陽子線腫瘍学 演習
	III-75	医療センシング学 講義		III-75	医療センシング学 講義
	III-76	医療センシング学 演習		III-76	医療センシング学 演習

博士課程 選択科目一覧

I 社会・保健・健康医学

選択科目 No. I-1 【疫学講義】

担当教員	教授 佐伯圭吾 特任准教授 大林賢史		
実施時間	通年 毎週木曜日 19：30～21：00	受入人数	3人
実施場所	疫学・予防医学講座会議室	単位数	2単位
評価方法	口頭発表 50%、口頭試問 50%		
一般教育目標 疫学研究デザインを理解して、研究の質を正しく読み解くための基礎力をつける。			
個別行動目標 1 それぞれの研究デザイン（生態学的研究、横断研究、症例対象研究、コホート研究、無作為化比較試験、システマティックレビュー・メタ解析）の内容を理解できる。 2 研究デザインによる強みと限界点を指摘できる。 3 サンプルサイズと検定結果の関係を理解できる。 4 交絡の制御方法を理解できる。			

選択科目 No. I-2 【疫学演習】

担当教員	教授 佐伯圭吾 特任准教授 大林賢史		
実施時間	通年 毎週金曜日 18：00～19：30	受入人数	3人
実施場所	疫学・予防医学講座会議室	単位数	2単位
評価方法	口頭発表 50%、口頭試問 50%		
一般教育目標			
集団データの代表値や統計学的検定結果を吟味し、科学的議論を行うことができる。			
個別行動目標			
1 集団データの特性を、代表値を算出して説明することができる。			
2 基本的な統計学的検定法を理解し、分析に応用することができる。			
3 臨床課題について、二次情報および一次情報を収集し、エビデンスレベルを理解できる。			
4 臨床課題解決にむけて、適切な研究デザインを選択し、臨床研究を立案できる。			

選択科目 No. I-3 【公衆衛生学講義】

担当教員	教授 今村知明 准教授 野田龍也		
実施時間	通年 水曜日 16：30～17：30	受入人数	2人
実施場所	公衆衛生学講座 第6研究室	単位数	2単位
評価方法	レポート 100%		
一般教育目標			
1 公衆衛生学の中でも特にEBPH（evidence based public health）について基本的な概念を獲得する。			
2 医療政策や医療経済、医療経営について基本的な概念を獲得する。			
個別行動目標			
社会医学研究を通じて得られた科学的根拠をもとに、実際の国や自治体の健康政策の実施や医療政策、経営に役立つような政策立案が出来る。			

選択科目 No. I-4 【公衆衛生学演習】

担当教員	教授 今村知明 准教授 野田龍也		
実施時間	通年 金曜日 16:00～18:00	受入人数	2人
実施場所	公衆衛生学講座 第6研究室	単位数	2単位
評価方法	レポート 100%		
一般教育目標			
1 EBPH（evidence based public health）について基本的な技術を獲得する。			
2 医療政策や医療経済、医療経営について基本的な技術を獲得する。			
個別行動目標			
社会医学研究を通じて得られた科学的根拠をもとに、実際の国や自治体の健康政策の実施や医療政策、経営に役立つような政策立案が出来る。			

選択科目 No. I — 5 【法医学講義】

担当教員	教授 粕田 承吾		
実施時間	通年 火曜日 17：00～18：00	受入人数	3人
実施場所	法医学教室図書室	単位数	2単位
評価方法	レポート 90%、小テスト 10%		
1 異状死体の検案の方法を修得するために死体現象、損傷の見方などについて理解する。 2 医療過誤についての認識を深めるため、医師の法的義務など法的背景を理解する。 3 死亡後に発生する法的諸問題に対して、正しい死亡診断書（死体検案書）の作成ができなければならないことを理解する。 4 死後経過時間や死因の推定が正しく行えるために、検案時に必要な検査や所見について理解する。			

選択科目 No. I — 6 【法医学演習】

担当教員	教授 粕田 承吾		
実施時間	通年 月曜日 10:00～12:00	受入人数	3人
実施場所	法医科学第2研究室及び法医解剖室	単位数	2単位
評価方法	レポート 80%、プレゼンテーション 20%		
1 事例をもとに死因や死後経過時間の推定根拠を説明する。 2 事例をもとに死亡診断書（死体検案書）を作成する。 3 スライドや画像により損傷所見を説明する。 4 系統的な死体検案を行い、的確な死体所見のとり方を修得する。			

選択科目 No. I — 7 【MBT 学講義】

担当教員	研究教授 梅田智広		
実施時間	通年 火曜日 10：00～11：30	受入人数	2人
実施場所	基礎医学棟4階 MBT 研究所	単位数	2単位
評価方法	レポート 70%、小テスト 30%		
現在、我が国における健康への関心は高まっており、医療に対する要望も多様化している。そんな中、医療に限定せずより広い視野で医学を生かす研究が強く求められている。MBT（Medicine-Based Town）とは、（新しく作る、または既存の）「まち」に、医科大学や医師等が持つ医学の知識・叡智（MBE）を注ぎ込み、付加価値の高いまち「MBT」を指す。これまで医師は、医学の知識を患者 1 人 1 人に対して用いてきたが、医師の持つ医学の知識は膨大であり、この知識や経験をものづくり、まちづくりに生かし、新産業創生、地方創生を目指す。産業が異なれば用いられる技術はもちろん、技術に対する考え方も異なる。医学を基礎としたまちづくりにおいて、必要なハード・ソフト・運営の全てに、当事者として関与し国際的にも一線で活躍出来る人材となるよう、各専門家との連携を通じ、医療健康領域における社会背景、関連技術を学ぶ。そして、MBT およびその目指す方向性への理解を深め、その基盤となる医学、科学の深みや広がり認識する。			

選択科目 No. I — 8 【MBT 学演習】

担当教員	研究教授 梅田智広		
実施時間	通年 火曜日 10:00～11:30	受入人数	2人
実施場所	基礎医学棟4階 MBT 研究所	単位数	2単位
評価方法	レポート 70%、小テスト 30%		
MBT は医学的エビデンスに基づき構築される。それには「医学」を基礎として「都市計画」「建築環境」「情報工学 (ICT)」など様々な分野との融合、データの蓄積のための仕組み作りが必要となる。また、その推進には医学、技術のみならず、企業人との連携も求められ、経営に関する基本的な知識とものの見方・考え方を学ぶ必要がある。演習では医学健康領域の知識・技術をベースにしたマネジメント全体を学び、MBT を実践していくために、自らテーマを定め、課題解決、サービス化について当事者らとの議論し MBT とは何か、学ぶ。研究においては、積極的に学術集会などへ参加および研究成果発表を行い、世界の動き、トレンドを知る、専門性を高める。			

選択科目 No. I — 9 【医療情報・病院管理学講義】

担当教員	教授 玉本 哲郎 招聘教授 水流 聡子 招聘教授 井上 貴裕		
実施時間	通年 月曜日 11：00～12：00	受入人数	1～2人
実施場所	戦略的医療情報連携推進講座	単位数	2単位
評価方法	レポート 100%		
一般教育目標			
医療情報の有効な利活用の方法とデータに基づく病院管理・マネジメントの方法を理解できるようになる。			
個別行動目標			
学位公聴会の聴講、抄読会、研究会、学会の出席等により、以下の内容の理解を深め、最新の知見を習得する。			
1 医療情報連携の戦略的な推進			
2 モバイル端末を利用した遠隔医療支援			
3 病院情報システムへの標準規格の実装			
4 患者状態適応型パスシステム（PCAPS）の有効な利活用			
5 診療情報データに基づく医療の質の改善および向上			
6 診療情報データに基づく医療安全			
7 診療情報データに基づく医療・病院マネジメント			
8 医療情報の有効な利活用を推進できる人材育成とそのキャリア支援			
9 病院管理を有効に実践できる人材育成とそのキャリア支援			

選択科目 No. I — 10 【医療情報・病院管理学演習】

担当教員	教授 玉本 哲郎 招聘教授 水流 聡子 招聘教授 井上 貴裕		
実施時間	通年 金曜日 18：00～20：00	受入人数	1～2人
実施場所	戦略的医療情報連携推進講座	単位数	2単位
評価方法	レポート 100%		
一般教育目標			
医療情報の有効な利活用の方法とデータに基づく病院管理・マネジメントの方法を理解できるようになる。			
個別行動目標			
抄読会における抄読担当、学会における研究発表等により、以下の内容の理解を深め、最新の知見を習得する。			
1 医療情報連携の戦略的な推進			
2 モバイル端末を利用した遠隔医療支援			
3 病院情報システムへの標準規格の実装			
4 患者状態適応型パスシステム（PCAPS）の有効な利活用			
5 診療情報データに基づく医療の質の改善および向上			
6 診療情報データに基づく医療安全			
7 診療情報データに基づく医療・病院マネジメント			
8 医療情報の有効な利活用を推進できる人材育成とそのキャリア支援			
9 病院管理を有効に実践できる人材育成とそのキャリア支援			

Ⅱ 生体情報・防御医学

選択科目 No.Ⅱ－１【生体高分子学講義】

担当教員	教授 酒井宏水 准教授 山本恵三 講師 松平崇		
実施時間	通年 木曜日 16:00～18:00	受入人数	2人
実施場所	化学研究室	単位数	2単位
評価方法	レポート 100%		
生体を構成するタンパク質、糖質、核酸など巨大分子成分は、生体高分子(Biomacromolecule, Biopolymer)に分類される。また、脂質分子が疎水性相互作用によって自発的に集合形成する分子集合体(Molecular Assembly)も高分子としての性質を呈する。医療器具、人工臓器、再生医療、医薬品(ドラッグデリバリーシステム)、血液代替物(人工赤血球)、には生体適合性材料として生体高分子およびその修飾体、或は合成高分子が用いられている。本講義では、バイオ・医療に深く関わっているこれら「高分子」の構造、物理化学的特性と機能について概説したい。			

選択科目 No.Ⅱ－２【生体高分子学演習】

担当教員	教授 酒井宏水 准教授 山本恵三 講師 松平崇		
実施時間	通年 木曜日 16：00～18：00	受入人数	2人
実施場所	化学研究室	単位数	2単位
評価方法	レポート100%		
生体高分子の精製法と化学修飾法、リポソームなどマイクロ・ナノカプセルの調製法、これらの物理化学的計測法、機能評価法について学ぶ。ドラッグデリバリーシステム、プロテインドラッグ、血液代替物(人工赤血球)、再生医療に用いられる医用材料、およびその生体内機能・安全性評価について、理解を深める。特に、ヘモグロビンを内包した人工赤血球について、各種疾患モデル(出血性ショック、虚血、臓器灌流モデルなど)を用い、酸素輸送効果、生体適合性の評価を行う。			

選択科目 No.Ⅱ－３【分子・細胞動態学講義】

担当教員	教授 永渕昭良		
実施時間	通年 木曜日 16：00～17：00	受入人数	約5人
実施場所	生物学教授室	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 100%		
一般教育目標			
生命現象を分子のレベルで理解することを目標としている。特に、多細胞動物の形作りにおいてどのように細胞がお互いを認識し、接着しているのか、最終的にそれらがどのように統合されて、個体を構築できるのかを理解する。			
個別行動目標			
1 細胞がお互いを認識し、接着している分子機構について説明できる。			
2 細胞の接着が細胞の形や極性・増殖に及ぼす影響について説明できる。			
3 細胞接着の破綻とがん細胞の特性について説明できる。			

選択科目 No.Ⅱ－４【分子・細胞動態学演習】

担当教員	教授 永渕昭良		
実施時間	通年 木曜日 17:00~18:00	受入人数	約5人
実施場所	生物学教授室	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 100%		
一般教育目標			
細胞間接着の分子機構の最先端の話題を切り口として、発生・がんなど高次生命現象を分子細胞レベルで理解する能力を養う。			
個別行動目標			
1 論文抄読により、科学論文の論理展開の基本を身につける。			
2 細胞間接着機構の最新の話題について、その重要性を理解する。			
3 発生やがんにおける細胞間接着機構の関与を理解する。			
4 解明すべき問題点を見つけるために必要な文献検索能力を身につける。			
5 論文内容及び研究データを適切に発表する能力を身につける。			

選択科目 No.Ⅱ—5 【相分離生物学講義】

担当教員	准教授 森 英一朗		
実施時間	通年 木曜日 9:00~10:30	受入人数	2人
実施場所	未来基礎医学・教員室及び第1研究室	単位数	2単位
評価方法	レポート 50%、発表 50%		
一般教育目標			
生物学的相分離から生命現象を理解できるようになる。			
個別行動目標			
学会公聴会の聴講、抄読会、学会等の出席等により、			
1 生体分子による自己集合の仕組みを理解する。			
2 生命誕生の仕組みを生物学的相分離で理解する。			
3 生物の進化を生物学的相分離で理解する。			

選択科目 No.Ⅱ—6 【相分離生物学演習】

担当教員	准教授 森 英一朗		
実施時間	通年 木曜日 16:30～18:00	受入人数	2人
実施場所	未来基礎医学・教員室及び第1研究室	単位数	2単位
評価方法	レポート 50%、発表 50%		
一般教育目標			
生物学的相分離から生命現象を理解できるようになる。			
個別行動目標			
抄読会における抄読担当、学会等における研究発表等を通じ、			
1 相分離生物学的な実験手法の概要（目的・方法・限界等）を説明できる。			
2 生物学的相分離を客観的に評価・説明できる。			
3 得られた実験結果から相分離生物学的な考察ができる。			

選択科目 No.Ⅱ—7 【分子生体構造科学講義】

担当教員	教授 井上 浩一		
実施時間	通年 火曜日 9：00～10：00	受入人数	5人
実施場所	第一解剖学教室 図書室	単位数	2単位
評価方法	レポート 100%		
一般教育目標			
ストレス応答のメカニズムについて、その機構解明に必要な知識と研究方法を、中枢神経系や心・血管系を中心に分子レベルから生体レベルまで修得する。			
個別行動目標			
1 ストレスホルモンとその受容体について理解する。			
2 ストレス応答に関わる神経回路について理解する。			

選択科目 No.Ⅱ—8 【分子生体構造科学演習】

担当教員	教授 井上 浩一		
実施時間	通年 火曜日 10：00～11：00	受入人数	4人
実施場所	第一解剖学教室 図書室／研究室	単位数	2単位
評価方法	レポート 50%、プレゼンテーション 50%		
一般教育目標			
論文紹介を中心としたセミナー形式の指導により、神経科学や血管生物学について理解を深め、最新の科学的知見を習得する。			
個別行動目標			
1 研究論文を読み、その学術的背景、研究目的、実験材料と方法、実験結果及び関連する議論についての確に解析、評価し、プレゼンテーションする能力を習得する。			
2 提起された問題解明に必要な文献を系統的に検索・分析する能力を習得する。			
3 研究データを適切にプレゼンテーションする能力を習得する。			

選択科目 No.Ⅱ－9 【機能形態学講義】

担当教員	教授 服部 剛志		
実施時間	通年 金曜日 9：30～11：00	受入人数	5人
実施場所	第二解剖学図書室	単位数	2単位
評価方法	講義への参加態度（積極性など）20%、レポート80%で総合評価する。		
一般教育目標			
神経系細胞の様々なストレス応答の分子メカニズムを理解する。			
個別行動目標			
1 組織における遺伝子発現の検出法を説明できる。			
2 神経系の損傷、ストレスの種類、動物モデルを概説できる。			
3 培養細胞への遺伝子導入、トランスジェニックマウス、ノックアウトマウスなどを用いた実験研究について説明できる。			

選択科目 No.Ⅱ－10 【機能形態学演習】

担当教員	教授 服部 剛志		
実施時間	通年 金曜日 16：00～18：00	受入人数	5人
実施場所	第二解剖学 第3研究室	単位数	2単位
評価方法	演習時の議論など20%、レポート80%で評価する。		
一般教育目標 神経系細胞のストレス応答を遺伝子、蛋白レベルで解析する。			
個別行動目標 1 損傷、虚血の動物モデルを作成することが出来る。 2 組織、細胞から遺伝子、蛋白を抽出し、電気泳動等で展開することが出来る。 3 組織、細胞における遺伝子、蛋白発現を免疫組織化学、In situ hybridization 法を用いて可視化することが出来る。 4 培養細胞に外来遺伝子を導入することが出来る。			

選択科目 No.Ⅱ－11 【脳神経生理学講義】

担当教員	教授 齋藤康彦		
実施時間	通年 金曜日 9：00～11：00	受入人数	2人
実施場所	第一生理学教室図書室	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 100%		
一般教育目標			
中枢神経系のシナプス伝達機構を理解するとともに、眼球運動について理解する。			
個別行動目標			
1 シナプス伝達の機能的意義について説明できる。			
2 眼球運動の生成機構を説明できる。			

選択科目 No.Ⅱ－12 【脳神経生理学演習】

担当教員	教授 齋藤康彦		
実施時間	通年 月曜日 10：00～12：00	受入人数	2人
実施場所	第一生理学教室図書室	単位数	2単位
評価方法	精読した論文に関する発表と討論 100%		
一般教育目標			
神経生理学分野の論文を精読し、適切に評価する。			
個別行動目標			
1 神経科学の基礎となる古典的な重要論文を正確に理解し、説明できる。			
2 眼球運動に関する最新論文を理解し、自身の研究と関係づけて説明できる。			

選択科目 No.Ⅱ－１３【生体機能制御機構学講義】

担当教員	教授 堀江恭二		
実施時間	通年 水曜日 18：00～20：00	受入人数	2人
実施場所	第2生理図書室	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 100%		
一般教育目標			
ES/iPS細胞とゲノム編集技術を用いた生理機能解析法及び疾患モデル構築に習熟する。			
個別行動目標			
マウス、ヒト細胞を対象に用いて、以下の実験方法を習得する。			
1 ゲノム編集法により、意図した変異をゲノムへ導入する技術。			
2 ES/iPS細胞の多能性の維持と分化誘導に関する技術。			

選択科目 No.Ⅱ－１４【生体機能制御機構学演習】

担当教員	教授 堀江恭二		
実施時間	通年 月曜日 18：00～20：00	受入人数	2人
実施場所	第2生理図書室	単位数	2単位
評価方法	プレゼンテーション 50%、口頭試問 50%		
一般教育目標 論文の精読を通じて、生理学、分子生物学に関する理解を深める。			
個別行動目標 以下の項目について習得する。 1 生理学、分子生物学に関する一般的実験手法。 2 ES細胞、iPS細胞の分化誘導法。 3 再生医学の現状と問題点。			

選択科目 No.Ⅱ－１５【老化生物学講義】

担当教員	教授 中村 修平		
実施時間	通年 月曜日 16：00～17：00	受入人数	2 人
実施場所	生化学図書室	単位数	2 単位
評価方法	口頭試問 100%		
一般教育目標 オートファジー研究やモデル生物を用いた寿命・老化研究の最先端を理解する。			
個別行動目標 1. 細胞を用いたオートファジーの活性や機能評価の手技を学ぶ 2. モデル生物を用いた寿命・老化研究の手技を学ぶ			

選択科目 No.Ⅱ－１６【老化生物学演習】

担当教員	教授 中村 修平		
実施時間	通年 火曜日 17：00～18：00	受入人数	2 人
実施場所	生化学図書室	単位数	2 単位
評価方法	口頭試問 50%、プレゼンテーション 50%		
一般教育目標 オートファジーや寿命・老化関連の研究論文を読み科学的思考力を養う			
個別行動目標 最先端の研究論文の背景や内容、問題点を理解し、説明することができる。			

選択科目 No.Ⅱ—17 【生体防御・修復医学講義】

担当教員	准教授 王寺 幸輝		
実施時間	通年 月、火曜日の内の2時間	受入人数	4人
実施場所	病原体・感染防御医学図書室	単位数	2単位
評価方法	レポート 50%、プレゼン演習 50%		
一般教育目標			
生体防御や組織修復には、組織幹細胞が重要な役割を果たしている。また、生体において自然には存在しない多能性幹細胞（ES細胞やiPS細胞など）が、すでに臨床研究として開始されており、今後も移植材料の作成、新薬開発、稀少疾患の病態解明などが期待される。本講義では、諸臓器の組織幹細胞および多能性幹細胞について細胞生物学的特性を講じ、その理解を目的とする。			
個別行動目標			
1 種々の幹細胞の特性を説明できる。			
2 個体、臓器・組織レベル、細胞レベルにおける基礎医学研究について説明できる。			
3 種々の疾患モデルに対する治療法、治療メカニズム等について概説できる。			

選択科目 No.Ⅱ—18 【生体防御・修復医学演習】

担当教員	准教授 王寺 幸輝		
実施時間	通年 水 金曜日の内の2時間	受入人数	4人
実施場所	病原体・感染防御医学図書室	単位数	2単位
評価方法	レポート 50%、プレゼン演習 50%		
一般教育目標			
特定疾病あるいは特定分野（臓器）を対象とし、その疾病あるいは臓器に関する生体防御・組織修復に関する方法論を学修する。			
個別行動目標			
1 種々の幹細胞を用いた研究手技を説明できる。			
2 幹細胞の単離・培養、分化誘導や分化メカニズム、動物モデル実験研究について説明できる。			
3 種々の病態解析を臨床医学的に考察することができる。			

選択科目 No.Ⅱ—19 【微生物学講義】

担当教員	教授 矢野寿一		
実施時間	通年 水曜日 9:00～10:00	受入人数	3人
実施場所	微生物感染症学図書室	単位数	2単位
評価方法	レポート 100%		
一般教育目標			
微生物の基本的性状・病原性について理解する。			
個別行動目標			
1 微生物と宿主の関係を理解する。			
2 微生物の感染経路、感染症発症機序について理解する。			
3 微生物の病原性因子について理解する。			
4 抗微生物薬の作用機序、耐性機序について理解する。			

選択科目 No.Ⅱ—20 【微生物学演習】

担当教員	教授 矢野寿一		
実施時間	通年 水曜日 10：00～11：00	受入人数	3人
実施場所	微生物感染症学図書室	単位数	2単位
評価方法	レポート 100%		
一般教育目標 微生物学研究を進める上での基本的な知識と研究方法を学ぶ。 個別行動目標 1 微生物のバイオセーフティレベルを理解する。 2 微生物を安全かつ適切に取り扱うことができる。 3 病原細菌のタイピングを理解する。 4 抗微生物薬の耐性機序とその検出法について理解する。			

選択科目 No.Ⅱ－2 1 【免疫学講義】

担当教員	教授 伊藤利洋		
実施時間	通年 月曜日 17:00～18:00	受入人数	4人
実施場所	免疫学教室 第一研究室	単位数	2単位
評価方法	レポート 100%		
一般教育目標 免疫系の遺伝学的特性及び免疫系を構成する細胞群や蛋白質の特性とこれらの相互作用、及び免疫系の破綻による疾病発現機序を学ぶ。			
個別行動目標 様々な疾患の発症メカニズムについて、免疫学的に説明できる。さらに免疫学的検査法の手技を列記でき、検査の特徴や意義を説明できる。			

選択科目 No.Ⅱ－2 2 【免疫学演習】

担当教員	教授 伊藤利洋		
実施時間	通年 金曜日 17:00～18:00	受入人数	4人
実施場所	免疫学教室 第一研究室	単位数	2単位
評価方法	レポート 100%		
一般教育目標			
最新の免疫学に関する論文を抄読し理解した上で、その内容について理解し、英語で説明・発表する。			
個別行動目標			
論文の形式（結語、前文、方法、結果、考察、引用、図、表の説明）を理解し、免疫学研究に必要なアプローチ・プロトコルを作成し、研究を組み立て、遂行できる。			

選択科目 No.Ⅱ－2 3 【情報伝達薬理学講義】

担当教員	教授 吉栖正典 准教授 中平毅一		
実施時間	通年 水曜日 17:00～18:00	受入人数	2人
実施場所	薬理学教室図書室	単位数	2単位
評価方法	小テスト 30%、レポート 70%		
一般教育目標			
薬理学研究を進める上での基礎的な知識と方法論を学ぶ。			
個別行動目標			
1 心血管病における酸化ストレスの関与と細胞内情報伝達系を理解する。			
2 敗血症におけるミトコンドリアの役割について理解する。			
3 プロテオミクスの手法を用いた薬理学について理解する。			

選択科目 No.Ⅱ－2 4 【情報伝達薬理学演習】

担当教員	教授 吉栖正典 准教授 中平毅一		
実施時間	通年 木曜日 13:00~17:00	受入人数	2人
実施場所	薬理学教室第三研究室	単位数	2単位
評価方法	小テスト 30%、レポート 70%		
一般教育目標			
薬理学研究を進める上での基礎的な研究立案方法、実験方法、データの解析法と解釈、論文・学会発表の方法を学ぶ。			
個別行動目標			
1 血管平滑筋、血管内皮、神経細胞などの培養系を用いて、分子生物学的手法による細胞内情報伝達系の解析を習得する。			
2 敗血症や covid-19 の病態におけるミトコンドリアの役割解明と治療戦略の策定に取り組む。			

選択科目 No.Ⅱ—2 5 【分子腫瘍病理学講義】

担当教員	教授 國安弘基		
実施時間	通年 月曜日 13：00～14：00	受入人数	5人
実施場所	分子病理学教室第3研究室	単位数	2単位
評価方法	レポート 100%		
一般教育目標			
分子腫瘍病理学は癌の発生・進展・転移の機構を分子レベルで解明し、臨床現場に還元する translational research をその本質とする。分子レベルでの機構解明のためには形態病理・細胞生物学・分子遺伝学などの知識と技術を習得することが必須であり、分子腫瘍病理学を学ぶ者は、単に病理学者であるのみならず、oncologist として腫瘍の基礎と臨床に幅広く介入することが求められる。			
個別行動目標			
1 ヒト及び実験動物における腫瘍と関連病変の組織病理学を理解する。			
2 ヒト及び実験動物における発癌・転移機構と遺伝子・遺伝子産物の変化を理解する。			
3 癌における遺伝子・遺伝子産物の変化と診断・治療への応用を知る。			

選択科目 No.Ⅱ—2 6 【分子腫瘍病理学演習】

担当教員	教授 國安弘基		
実施時間	通年 月曜日 12：00～13：00	受入人数	5人
実施場所	分子病理学教室第2研究室	単位数	2単位
評価方法	レポート 100%		
一般教育目標			
論文読解を中心としセミナー形式の指導から癌に対する知識・科学的評価法等を習得する。			
個別行動目標			
1 癌・前癌病変の病理組織、その遺伝子・遺伝子産物の変化について最新の知見を習得する。			
2 発癌モデルとその病理組織・遺伝子・遺伝子産物の変化について最新の知見を習得する。			
3 研究データを解析し、的確な評価と補足実験のデザインを考案する。			
4 提起された問題の解明に必要な文献を系統的に検索する能力を習得する。			
5 研究データを適切にプレゼンテーションする能力を習得する。			

選択科目 No.Ⅱ—2 7 【発生・再生医学講義】

担当教員	教授 栗本一基		
実施時間	通年 水曜 13：00～14：30	受入人数	1～2人
実施場所	発生・再生医学講座第 1 研究室	単位数	2 単位
評価方法	講義態度 50%・口頭試問 50%		
生殖細胞の発生を含む、哺乳類の胚発生機構の研究に必要な生物学的知識を習得する（マウス をモデル生物とする）。特に、生殖細胞の形成機構と、その試験管内再構成の仕組みを学習する。また、胚発生過程のゲノム制御機構（遺伝子発現制御、エピゲノム制御）に対する解析技術 の動作原理（トランスクリプトーム解析、エピゲノム解析を含む）を理解する。特に、発生過程 に出現する、微量試料（単一細胞を含む）に対する解析技術の特性を理解する。			

選択科目 No.Ⅱ—2 8 【発生・再生医学演習】

担当教員	教授 栗本一基		
実施時間	通年 水曜 14：30～16：00	受入人数	1～2人
実施場所	発生・再生医学講座第 1 研究室	単位数	2単位
評価方法	プレゼンテーション 50%・プレゼンテーション資料 50%		
論文精読会や研究進捗報告会において、生殖細胞の発生を含む胚発生過程のゲノム制御研究に 関する理 解を深め、研究の進捗と方向性を検討する。生殖細胞の形成機構と、その過程における ゲノムおよびエピ ゲノム制御機構の研究手法を検討する。また、微量試料に対するゲノム科学的 解析技術の応用と改善点を 検討する			

選択科目 No.Ⅱ—29【血栓止血学先端医学講義】

担当教員	准教授 辰巳公平		
実施時間	通年 金曜日 16：00～18：00	受入人数	1～2人
実施場所	血栓止血先端医学講座 会議室	単位数	2単位
評価方法	研究内容のプレゼンテーション 30%、レポート 70%		
一般教育目標			
基礎医学・臨床医学の両側面から、血栓止血学についての理解を深める。			
個別行動目標			
1 血液凝固線溶の機序を理解することで、出血性疾患・血栓性疾患の病態生理を考察できる。			
2 再生医療や遺伝子治療について理解し、血栓止血学への応用について考察できる。			
3 血液凝固線溶因子の、血液凝固以外の生理作用について理解し、その臨床応用の可能性について考察できる。			

選択科目 No.Ⅱ—30【血栓止血学先端医学演習】

担当教員	准教授 辰巳公平		
実施時間	通年 水曜日 15：00～18：00	受入人数	1～2人
実施場所	血栓止血先端医学講座 実験室	単位数	2単位
評価方法	研究内容のプレゼンテーション 30%、レポート 70%		
一般教育目標			
血栓止血学領域の基礎研究についての理解を深め、その研究技術を習得して実践することで、新規治療法の臨床応用や未知の分子メカニズムの解明を目指す。			
個別行動目標			
1 血液凝固線溶因子に関する分子生物学的評価法、蛋白生化学的評価法を修得する。			
2 培養細胞や小動物を用いた基礎医学実験を通じて、自身が立てた作業仮説の検証を行い、その臨床応用の可能性について考察できる。			
3 実臨床で観察される事象から未解明の医学的知見を見出し、基礎研究を通じてそれを科学的に証明でき、さらにはそれを新規治療法の確立につなげる可能性について考察できる。			

選択科目 No.Ⅱ—31【応用医学・医療学講義】

担当教員	准教授 菓子野元郎 准教授 金子涼輔		
実施時間	通年 火曜日 13：00～15：00	受入人数	4人
実施場所	基礎医学棟 5階 RI 教官室	単位数	2単位
評価方法	口頭試問（50%）とレポート（50%）		
一般教育目標			
放射線による生体影響について、細胞レベルと組織レベルでの応答について理解を深める。			
個別行動目標			
1：放射線の種類とそれぞれの特性について説明出来る。			
2：放射線照射後の応答機構について説明出来る。			
3：放射性同位元素を用いた応用研究について説明できる。			
4：放射線の生物作用について説明できる。			

選択科目 No.Ⅱ—32【応用医学・医療学演習】

担当教員	准教授 菓子野元郎 准教授 金子涼輔		
実施時間	通年 火曜日 15:00～17:00	受入人数	4人
実施場所	基礎医学棟5階 RI 教官室	単位数	2単位
評価方法	プレゼンテーション (50%) とレポート (50%)		
一般教育目標			
放射線による生体影響について、細胞レベルと組織レベルでの応答機構を説明出来る。			
個別行動目標			
1: 研究論文を理解し、プレゼンテーションする能力を習得する。			
2: 自分の研究データを客観的に評価し、説明できるようになる。			
3: 放射線照射後のシグナル伝達経路を考察する。			

選択科目 No.Ⅱ－3 3 【循環器システム医科学講義】

担当教員	招聘教授 小亀浩市 招聘教授 中川修		
実施時間	通年 水曜日 13:30～15:30	受入人数	4人
実施場所	国立循環器病研究センター研究所 会議室	単位数	2単位
評価方法	講義態度 50% レポート 50%		
一般教育目標 循環器・血液・凝固線溶系の生理・病態生理の分子メカニズムを理解する。			
個別行動目標 循環器系・血液・凝固線溶系の機能調整・発生制御機構と関連疾患の病因・病態に関する研究の成果発表会および Journal Club（論文紹介）に参加することにより、その生理・病態生理の分子メカニズムについて学ぶ。実施場所・曜日・時間などは学生の希望により変更可能、リモート参加も可能である。			

選択科目 No.Ⅱ－3 4 【循環器システム医科学演習】

担当教員	招聘教授 小亀浩市 招聘教授 中川修		
実施時間	通年 水曜日 15:30~17:30	受入人数	4人
実施場所	国立循環器病研究センター研究所 研究室	単位数	2単位
評価方法	演習態度 50% レポート 50%		
一般教育目標 医科学・生物学研究の発表・討論の基礎を習得する。			
個別行動目標 循環器系・血液・凝固線溶系の機能調整・発生制御機構と関連疾患の病因・病態に関する研究の実験データ報告会に参加することにより、医科学・生物学の研究発表・討論の基礎を習得する。実施場所・曜日・時間などは学生の希望により変更可能、リモート参加も可能である。			

Ⅲ 器官機能・病態制御医学

選択科目 No.Ⅲ―1 【循環器病態制御医学講義】

担当教員	教授 彦惣俊吾		
実施時間	通年 月曜日 18：00～ 水曜日 18：00～	受入人数	3人
実施場所	循環器内科医局	単位数	2単位
評価方法	授業態度（30％）、レポート（70％）		
・循環器疾患の臨床研修・基礎研究を進めるにあたっての手引き ・現在のトピックスの講義 ・各教官が月一回は各々の研究分野についての最新の進歩を講義する。			

選択科目 No.Ⅲ―2 【循環器病態制御医学演習】

担当教員	教授 彦惣俊吾		
実施時間	通年 月曜日 18:00～	受入人数	3人
実施場所	循環器内科医局	単位数	2単位
評価方法	口頭試問(30%)、レポート(70%)		
臨床研究・基盤研究の Progress を大学院生が発表し、実験データの解釈、計画の建て方、進め方について、最新の論文等を参考にしながら検討する。			

選択科目 No.Ⅲ―3 【腎臓病態制御医学講義】

担当教員	教授 鶴屋和彦		
実施時間	通年 月曜日 19：00～21：00	受入人数	3人
実施場所	腎臓内科医局	単位数	2単位
評価方法	面談 50% レポート 50%		
一般教育目標			
腎臓病および腎臓病に伴う合併症の病態について理解を深める。			
個別行動目標			
1 急性腎障害の病態、診断、治療を理解する。			
2 慢性腎臓病の病態、診断、治療を理解する。			
3 腎生検病理診断の基本を習得する。			
4 慢性腎臓病の合併症（貧血・骨ミネラル代謝異常・心不全）の病態と治療を理解する。			

選択科目 No.Ⅲ―4 【腎臓病態制御医学演習】

担当教員	教授 鶴屋和彦		
実施時間	通年 水曜日 19：00～21：00	受入人数	3人
実施場所	腎臓内科医局	単位数	2単位
評価方法	面談 50% レポート 50%		
一般教育目標 腎臓病および腎臓病に伴う合併症の機序を解明する。			
個別行動目標 1 腎臓病に関する最新の知見を学習する。 2 臨床研究データの解析法を習得し、実践する。 3 基礎実験（培養実験、動物実験）の基本を習得し、実践する。			

選択科目 No.Ⅲ—5 【呼吸器・病態制御医学講義】

担当教員	教授 室 繁郎 准教授 本津茂人 講師 山本佳史 講師 谷村和哉		
実施時間	通年 ①木曜日又は金曜日 16：00～18：00 ②18：00～20：00		受入人数 7人
実施場所	①呼吸器科医局 ② 呼吸器内科医局・他		単位数 2単位
評価方法	小テスト 30%、レポート 70%		
①剖検症例検討報告会 ②呼吸器セミナー			
一般教育目標			
①臨床症例の病理学的検討を行うことによって、疾病の病態を理解する			
②呼吸器疾患領域の臨床的、基礎的なトピックスを交えた講演を受けることにより理解を深める。			
個別行動目標			
①全身臓器の病理学的変化を理解する。肺癌の病理組織、伸展形式について理解する。			
①炎症性肺疾患、COPD、肺循環障害の病理組織変化を理解する。			
②呼吸器疾患領域の臨床について最新の知識を理解する。			
②呼吸器疾患領域の基礎的研究について最新の知識を理解する。			

選択科目 No.Ⅲ—6 【呼吸器・病態制御医学演習】

担当教員	教授 室 繁郎 准教授 本津茂人 講師 山本佳史 講師 谷村和哉			
実施時間	通年 月曜日 17：00～19：00 火曜日 17：00～18：00		受入人数	7人
実施場所	呼吸器内科医局		単位数	2単位
評価方法	小テスト 30%、レポート 70%			
臨床カンファレンス（1）				
一般教育目標				
臨床症例の検討を通して、内科診断・治療の体系的な知識を得る。				
個別教育目標				
呼吸器、疾患患者の診断・治療方針についての検討に参加できる知識を習得する。				
胸部を中心とする画像診断を習得する。				

選択科目 No.Ⅲ—7 【血液病態制御医学】

担当教員	教授 松本雅則 講師 久保政之		
実施時間	通年 水曜日 17:00～19:00	受入人数	2人
実施場所	血液内科医局	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 100%		
一般教育目標			
造血器疾患について、病態を体系的に理解し、診断、治療について基礎的な知識を深める。			
個別行動目標			
1. 造血器悪性腫瘍の病因および診断、治療について理解する。			
2. 造血幹細胞移植の基礎とその合併症の病態、診断、治療について理解する。			
3. 血栓・出血性疾患の病態生理および診断、治療について理解する。			
4. 血液疾患における末梢血像、骨髓像の見方の基礎を学ぶ。			

選択科目 No.Ⅲ—8 【血液病態制御医学】

担当教員	教授 松本雅則 講師 久保政之		
実施時間	通年 金曜日 17:00～19:00	受入人数	2人
実施場所	血液内科医局	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 100%		
一般教育目標 造血器疾患に関する文献の検索、精読を通して、研究に必要となる最新の知見を収集し、批判的吟味を行う力を涵養する。また、Clinical question に基づき、それを解明するための研究計画を立案する力を身につける。			
個別行動目標 1. 造血器疾患に関する最新の文献を収集し、その内容を理解するとともに要旨を紹介することができる。 2. Clinical question を立て、その解明に必要な研究計画を立案し、遂行することができる。 3. 造血器疾患に伴う血栓性、出血性事象について、その評価、解析に必要な手法を理解する。			

選択科目 No.Ⅲ— 9 【消化器病態・代謝機能制御医学講義】

担当教員	教授 吉治仁志、病院教授 美登路昭 准教授 浪崎正、准教授 鍛冶孝祐 講師 西村典久、北川 洸、佐藤慎哉		
実施時間	通年 月曜日 17：00～19：00	受入人数	7人
実施場所	消化器内科医局	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 100%		
一般教育目標 消化器疾患の病態を深く理解し、EVM を実践するための基礎知識を得る。			
個別行動目標 1 代表的な肝疾患の病態を理解する。 2 肝と他臓器相関について理解する。 3 消化管疾患の病態を理解する。 4 消化器癌の病態と治療の現状、将来を理解する。			

選択科目 No.Ⅲ— 1 0 【消化器病態・代謝機能制御医学演習】

担当教員	教授 吉治仁志、病院教授 美登路昭 准教授 浪崎正、准教授 鍛冶孝祐 講師 西村典久、北川 洸、佐藤慎哉		
実施時間	通年 木曜日 17：00～19：00	受入人数	7人
実施場所	消化器内科医局	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 100%		
一般教育目標 肝病態を幅広く理解し、肝疾患の診断に習熟するために、肝機能検査の読み方、肝組織像のみかたを学習する。			
個別行動目標 1 肝機能検査の読み方を理解する。 2 代表的な肝疾患の原因診断、機能診断、組織診断を理解し、鑑別能を体得する。 3 代表的な肝疾患の臨床経過、予後を理解する。 4 代表的な肝疾患の臨床経過に即した治療法を理解する。			

選択科目 No.Ⅲ— 1 1 【糖尿病・内分泌内科学講義】

担当教員	教授 高橋 裕		
実施時間	通年 月曜日 16：00～18：00、20：00～21：00	受入人数	5 人
実施場所	A 棟 5 階会議室あるいは糖尿病内分泌内科学医局、Web 講義	単位数	2 単位
評価方法	達成度評価：レポート 100%		
一般教育目標			
糖尿病・内分泌疾患の病態を深く理解し、EVM を実践するための基礎知識を得る。			
個別行動目標			
1 代表的な糖尿病・内分泌疾患の病態・検査・治療を理解する。			
2 ホルモンを介した多臓器相関と恒常性維持機構、その破綻による疾患について理解する。			
3 糖尿病・内分泌疾患診療、研究のアップデートを理解する。			

選択科目 No.Ⅲ— 1 2 【糖尿病・内分泌内科学演習】

担当教員	教授 高橋 裕		
実施時間	通年 火曜日、金曜日 16：30～17：30	受入人数	3人
実施場所	糖尿病内分泌内科学医局	単位数	2単位
評価方法	達成度評価：レポート 100%		
一般教育目標			
糖尿病・内分泌代謝疾患の病態を解明するために、主にビッグデータ解析による研究アプローチについて学習、議論に参加する。			
個別行動目標			
1 ビッグデータ解析の方法、アプローチ、限界を理解する。			
2 糖尿病・内分泌疾患に関連したビッグデータ解析を実践し、学会・論文発表に必要な技術・知識を習得する。			

選択科目 No.Ⅲ—1 3 【臨床神経筋病態学講義】

担当教員	教授 杉江和馬 准教授 形岡博史		
実施時間	火曜日（8月は除く） 9：00～11：30	受入人数	数人
実施場所	脳神経内科医局	単位数	2単位
評価方法	面接 30% レポート 70%		
一般教育目標			
神経筋疾患や神経変性疾患、脳血管障害の病態を理解する。			
個別行動目標			
1 臨床神経学的所見に加えて、遺伝学的、病理学的、神経生理学的所見から病態を説明できる。			
2 分子生物学的構造やオートファジー機構と病因との関連について説明できる。			
3 疾患発症の原因病態について説明できる。			

選択科目 No.Ⅲ—1 4 【臨床神経筋病態学演習】

担当教員	教授 杉江和馬 准教授 形岡博史		
実施時間	通年 火曜日 13：00～17：00	受入人数	2人
実施場所	脳神経内科研究室	単位数	2単位
評価方法	面接 30% レポート 70%		
一般教育目標 神経筋疾患や神経変性疾患、脳血管障害の基礎的な病態機序を考察して理解する。			
個別行動目標 1 臨床神経学的所見に加えて、遺伝学的、病理学的、神経生理学的所見ら病態を考察して発表できる。 2 分子生物学的構造やオートファジー機構と病因との関連について、遺伝学的および病理学的解析から発表できる。 3 疾患発症の原因病態について、神経生理学的および超音波検査を用いて考察して発表できる。			

選択科目 No.Ⅲ—1 5 【消化器機能制御医学講義】

担当教員	教授 庄雅之		
実施時間	通年 火曜日 16：00～17：00	受入人数	5人
実施場所	消化器・総合外科医局	単位数	2単位
評価方法	レポート 100%		
一般教育目標			
消化器癌を制御するため病態生理学的、及び病理学的変化を把握し、EBMに基づいた診断と治療を行うことが必要である。将来のトランスレーショナルリサーチに向けたリサーチマインドを養うことを目標とする。			
個別教育目標			
・医学研究論文の検索・分析・評価能力を取得する。			
・消化器疾患に対するクリニカルクエスション（CQ）を提案する。			

選択科目 No.Ⅲ—1 6 【消化器機能制御医学演習】

担当教員	教授 庄雅之		
実施時間	通年 火曜日 16：00～17：00	受入人数	5人
実施場所	消化器・総合外科医局	単位数	2単位
評価方法	レポート 100%		
一般教育目標			
臨床研究やトランスレーショナルリサーチの意義を実習により理解するとともに、消化器疾患における外科的治療についての最新知見を習得する。			
個別行動目標			
・基礎研究と臨床研究の意義を模擬実習により理解する。 ・基礎研究における実験手技、データ統計解析手法や machine learning について習得する。 ・学会における効果的なプレゼンテーションスキルを学ぶ。			

選択科目 No.Ⅲ— 1 7 【脳神経機能制御医学講義】

担当教員	教授 中川一郎 病院教授 朴永銖 准教授 西村 文彦		
実施時間	4/1～12/31 毎週水曜日～金曜日、土曜日	受入人数	4～5 人
実施場所	脳神経外科医局、病棟その他	単位数	2 単位
評価方法	実習 30%、レポート 70%		
一般教育目標			
脳血管障害、脳脊髄腫瘍、てんかん、頭部外傷などの病態を学び、神経機能解剖の理解と外科的アプローチの考え方を学ぶ。			
個別行動目標			
1. 実臨床から得られるクリニカルクエスションから研究を進めていく手法を学ぶ。			
2. テーマを理解し、データを解析し発表を行う手法を学ぶ。			

選択科目 No.Ⅲ— 1 8 【脳神経機能制御医学演習】

担当教員	教授 中川一郎 病院教授 朴永銖 准教授 西村 文彦		
実施時間	4/1～12/31 毎週木曜日、土曜日	受入人数	4～5 人
実施場所	脳神経外科医局	単位数	2 単位
評価方法	実習 30%、レポート 70%		
一般教育目標			
臨床医が行う臨床研究の意義を学び、脳神経外科疾患の外科治療およびカテーテル治療に関する最新知見を学ぶ。			
個別行動目標			
1 脳卒中や脳腫瘍等の脳神経脊髄疾患対する外科及びカテーテル治療について学ぶ。			
2 脳血管障害における循環代謝の評価と重要性を学ぶ。			

選択科目 No.Ⅲ— 1 9 【循環・呼吸機能制御医学講義】

担当教員	教授 細野光治 准教授 濱路政嗣		
実施時間	通年 木曜日 8:30～11:00	受入人数	2人
実施場所	胸部・心臓血管外科学教室医局	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 100%		
一般教育目標 “高い質の外科治療の提供”を目指し、以下の内容について講義を行う。			
個別行動目標			
1 手術に必要な心大血管の解剖の理解			
2 基本手術手技の修得			
3 人工心肺装置の理解			
4 心大血管手術周術期管理の実践			

選択科目 No.Ⅲ— 2 0 【循環・呼吸機能制御医学演習】

担当教員	教授 細野光治 准教授 濱路政嗣		
実施時間	通年 木曜日 8:30~11:00	受入人数	2人
実施場所	胸部・心臓血管外科学教室医局	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 100%		
一般教育目標			
“高い質の外科治療の提供”を目指し、以下の内容について演習を行う。			
1 肺切除・再建を念頭に置いた心肺機能を理解し実施する。			
2 悪性腫瘍における分子生物学的動態を理解し治療に反映する。			
3 肺移植、再生治療を理解し経験する。			
4 癌転移メカニズムを理解し制御する方略を見据える。			

選択科目 No.Ⅲ— 2 1 【運動器再建医学講義】

担当教員	准教授 谷口晃 教授（寄附講座） 面川庄平 教授（寄附講座） 朴木寛弥 教授 城戸顕 准教授 河村健二 講師 重松英樹		
実施時間	火曜日 7：30～9：30、16：00～18：00、木曜日 16：00～18：00	受入人数	4人
実施場所	整形外科医局	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 80%、授業態度 20%		
整形外科的疾患の概要と基礎的知識の修得 代表的な整形外科疾患の診断と主たる治療の適応 症例発表の形式と方法 骨関節疾患の最新情報と将来展望			

選択科目 No.Ⅲ— 2 2 【運動器再建医学演習】

担当教員	准教授 谷口晃 教授（寄附講座） 面川庄平 教授（寄附講座） 朴木寛弥 教授 城戸顕 准教授 河村健二 講師 重松英樹		
実施時間	火曜日 8：30～16：00、木曜日 9：00～18：00	受入人数	4人
実施場所	中央手術室、中央放射線部、整形外科研究室、外来	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 80%,授業態度 20%		
外来診察の実際と治療の基本の修得 整形外科疾患に対する基礎的手術手技の修得 動物実験を利用した基礎研究の方法の修得 整形外科的特殊手技の実践			

選択科目 No.Ⅲ— 2 3 【スポーツ医科学講義】

担当教員	准教授 谷口晃 准教授 小川宗宏		
実施時間	火曜日 10：00～11：00	受入人数	2人
実施場所	スポーツ医学研究室	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 80%,授業態度 20%		
1 スポーツ医学の基本知識の理解 2 スポーツ傷害メカニズムの理解とその治療法・予防法の習熟 3 運動器オーバーユース障害の病態理解			

選択科目 No.Ⅲ— 2 4 【スポーツ医科学演習】

担当教員	准教授 谷口晃 准教授 小川宗宏		
実施時間	月曜日 9：00～18：00 金曜日 8:30～17：30	受入人数	2人
実施場所	中央手術室、整形外科外来	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 80%,授業態度 20%		
1 スポーツ外来診療の実際と治療における基本知識の習得 2 スポーツ外来診療における基本手技の習得（超音波検査含む） 3 スポーツ傷害治療における基本的手術手技の理解と習得 4 運動器における全身振動トレーニングの実践と手技の習得			

選択科目 No.Ⅲ— 2 5 【女性生殖器病態制御医学講義】

担当教員	教授 木村文則 准教授 川口龍二		
実施時間	通年月曜日 17:15～18:15	受入人数	4人
実施場所	産科婦人科学教室医局および病棟	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 100%		
一般教育目標 産科婦人科学領域疾患の診断・治療を学ぶ。 個別行動目標 1 産科婦人科学領域疾患の診療過程の実際を知る。 (手術症例検討会への参加) 2 産科婦人学領域疾患の診療に必要な基礎的・臨床的エビデンスを習得する。 (抄読会、学会予演会の聴講) 3 羊水塞栓症診断法の検討より基礎的な病理や生化学の技術修練をする。 4 婦人科手術に必要な骨盤内の解剖と実際の婦人科手術の手技について理解する。			

選択科目 No.Ⅲ— 2 6 【女性生殖器病態制御医学演習】

担当教員	教授 木村文則 准教授 川口龍二		
実施時間	通年月曜日 17:15~18:15	受入人数	4人
実施場所	産科婦人科学教室医局および病棟	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 100%		
一般教育目標			
産科婦人科学領域疾患の診断・治療を学ぶ。			
個別行動目標			
1 産科婦人科学領域疾患の診療過程の実際に参加する。 (手術症例検討会における症例呈示、討論参加)			
2 産科婦人科学領域疾患の診療に必要な基礎的・臨床的エビデンスを収集する。 (抄読担当や総説発表)			
3 産科婦人科学領域疾患に関する研究成果を学会にて発表する。 臨床評価法、薬物療法の選択と有用性を検討し、論文作成と論文評価法を演習する。			
4 羊水塞栓症例のデータより原因を統計学的に解析する。			
5 婦人科癌化学療法の効果判定について実際の症例を用いて判定し、奏効率を計算する。			
6 婦人科癌治療台帳を使用して、各種婦人科癌の5年生存率などを算出する。			

選択科目 No.Ⅲ— 2 7 【視覚統合医学講義】

担当教員	教授 加瀬諭		
実施時間	通年 火曜日 17:00～19:00	受入人数	2人
実施場所	眼科医局	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 100%		
視機能の成り立ちとその病態および治療			

選択科目 No.Ⅲ— 2 8 【視覚統合医学演習】

担当教員	教授 加瀬諭		
実施時間	通年 水曜日 17：00～19：00	受入人数	2 人
実施場所	眼科医局	単位数	2 単位
評価方法	口頭試問 100%		
・ 視覚系の機能と病態生理について理解を深める ・ 眼科学の最新の知見を得て、問題点を考える			

選択科目 No.Ⅲ—2 9 【発達・成育医学講義】

担当教員	教授 野上恵嗣		
実施時間	9月～12月の火・木曜日 17:00～19:00	受入人数	2～3人
実施場所	小児科医局	単位数	2単位
評価方法	レポート 100%		
一般教育目標			
出血性疾患ならびに小児救急疾患の病因・病態および診断と治療について理解を深める。			
個別行動目標			
1 先天性・後天性出血性疾患の病因・病態を理解し、その診断と治療を修得する。			
2 児童虐待を含む小児救急疾患の病態と社会的・心理的病態を理解し、その診断と治療及び社会的な対応の基本を修得する。			
3 小児の発達・発育を理解・評価し、社会的適応について考察できる。			

選択科目 No.Ⅲ—3 0 【発達・成育医学演習】

担当教員	教授 野上恵嗣		
実施時間	1～3 学期の金曜日 15：00～18：00	受入人数	2～3人
実施場所	小児科研究室	単位数	2 単位
評価方法	レポート 100%		
一般教育目標 出血性疾患ならびに救急疾患の病因・病態および診断と治療を行うための検査や理論について理解を深める。			
個別行動目標 1 各種凝固・線溶因子および血小板の分子生物学的解析法および蛋白生化学的解析法を修得する。 2 児童虐待を含む小児救急疾患に関する検査、診断、治療および予防・社会的対応について基礎的および専門的能力と技術を修得する。 3 小児感染症の病因・病態を理解し、その予防策としての予防接種の理論と実践を修得する。			

選択科目 No.Ⅲ—3 1 【発生・発達医学講義】

担当教員	准教授 内田優美子		
実施時間	通年 火曜日 15:00～17:00	受入人数	1～2人
実施場所	新生児集中治療室医局	単位数	2単位
評価方法	口頭評価 100%		
一般教育目標 新生児期の胎外環境への適応と新生児疾患の病態生理の理解を深める。			
個別行動目標 1 低出生体重児特有の病態を理解し、その診断と治療法を習得する。 2 低酸素血症に伴う、呼吸循環動態を理解し、その診断と治療法を習得する。			

選択科目 No.Ⅲ—3 2 【発生・発達医学演習】

担当教員	准教授 内田優美子		
実施時間	通年 火曜日 9：00～12：00	受入人数	1～2人
実施場所	新生児集中治療部医局および研究室	単位数	2単位
評価方法	口頭評価 100%		
一般教育目標			
新生児の病態生理を評価するための、診断と検査法および理論についての理解を深める。			
個別行動目標			
1 新生児蘇生法の手技を習得するため、NCPR講習会に参加する。			
2 早産児ビリルビン脳症の発生機序の解明。			
3 早産児の栄養と成長発達に関する研究への参加。			

選択科目 No.Ⅲ—3 3 【精神医学行動神経科学講義】

担当教員	教授 岡田俊 講師 山内崇平		
実施時間	通年 水曜日 15：00～16：00	受入人数	4 人
実施場所	精神科医局	単位数	2 単位
評価方法	口頭試問 100%		
脳や精神機能に関する最新の進歩を取り入れた講義とケースカンファレンスを通じて、精神疾患の病態理解や精神疾患を有する当事者が直面する課題を解決する方略について洞察を深めることができることを目的とする。			

選択科目 No.Ⅲ—3 4 【精神医学行動神経科学演習】

担当教員	教授 岡田俊 講師 山内崇平		
実施時間	通年 水曜日 16：00～17：00	受入人数	4 人
実施場所	精神科医局	単位数	2 単位
評価方法	口頭試問 100%		
1 精神医学行動神経科学分野の論文を精読し、臨床疑問を解決する研究立案ができる能力を培う。 2 研究を実施するための基礎的な技能を習得し、研究を推測できる基礎能力を習得する。 3 研究成果を社会実装し、当事者の直面する課題を解決する実践技能を習得する。			

選択科目 No.Ⅲ—3 5 【皮膚病態医学講義】

担当教員	准教授 新熊 悟		
実施時間	通年 月曜日 17：00～19：00	受入人数	4 人
実施場所	皮膚科医局	単位数	2 単位
評価方法	口頭試問 100%		
外来症例検討会、組織検討会 一般教育目標 皮膚疾患診断についての基礎知識と最新の知見を得る。 個別行動目標 皮膚病理組織診断の基本と実際を習得する。			

選択科目 No.Ⅲ—3 6 【皮膚病態医学演習】

担当教員	准教授 新熊 悟		
実施時間	通年 水曜日 17：00～19：00	受入人数	4 人
実施場所	皮膚科病棟および皮膚科医局	単位数	2 単位
評価方法	口頭試問 100%		
病棟症例検討会、抄読会			
一般教育目標			
皮膚疾患の診断と治療の基本を理解する。			
個別行動目標			
皮膚科入院患者の病態の推移と治療について理解を深める。			

選択科目 No.Ⅲ— 3 7 【泌尿器病態機能制御医学講義】

担当教員	教授 藤本清秀		
実施時間	通年 月曜日 17:15～18:45	受入人数	3 人
実施場所	泌尿器科医局	単位数	2 単位
評価方法	面接口頭試験（100％）		
一般教育目標 泌尿器疾患の診療に関する知識を修得し、症例検討会に提示される症例に関する問題点を理解する。			
個別行動目標 ・ 泌尿器癌の病態と最新の治療法を理解する。 ・ 排尿障害の病態と最新の治療法を理解する。 ・ 腎不全の病態と最新の治療法を理解する。			

選択科目 No.Ⅲ— 3 8 【泌尿器病態機能制御医学演習】

担当教員	教授 藤本清秀		
実施時間	通年 火・水・木曜日 9：00～15：00	受入人数	3 人
実施場所	泌尿器科外来・手術室・研究室	単位数	2 単位
評価方法	面接口頭試験（100％）		
一般教育目標 泌尿器科領域の研究を理解し、排尿機能検査および血液浄化療法の手技を習得する。			
個別行動目標 ・ 泌尿器科の手術、内視鏡検査、および排尿機能検査の主な主手技を修得する。 ・ 血液浄化療法と腎移植の手技と管理法を理解する。 ・ 泌尿器癌の基礎/臨床研究を理解する。			

選択科目 No.Ⅲ— 3 9 【前立腺小線源治療学講義】

担当教員	教授 田中宣道 准教授 浅川勇雄 講師 中井靖		
実施時間	通年 月曜日 17：15～18：45	受入人数	1～2人
実施場所	泌尿器科医局	単位数	2単位
評価方法	面接による評価 100%		
一般教育目標			
前立腺癌に対する診断 治療 診療について最新の知見を取得し、症例検討において個別の症例から問題点を理解する。			
個別行動目標			
・ 低線量率小線源治療について、原理、治療法の実際について修得する。 ・ 高線量率小線源治療について、原理、治療法の実際について修得する。 ・ ロボット補助下前立腺全摘除術、強度変調放射線治療、粒子線治療、抗男性ホルモン治療、化学療法について、原理、治療法の実際について修得する。			

選択科目 No.Ⅲ— 4 0 【前立腺小線源治療学演習】

担当教員	教授 田中宣道 准教授 浅川勇雄 講師 中井靖		
実施時間	通年 8:00～15：00	受入人数	1～2人
実施場所	小線源治療室 手術室 RALS 室 泌尿器科研究室	単位数	2単位
評価方法	面接による評価 100%		
一般教育目標			
前立腺がん治療全般および小線源治療法を修得する。			
個別行動目標			
・ 小線源治療およびその他の前立腺癌治療について修得する。			
・ 研究データの統計解析、論文作成、試験プロトコルの作成法を習得する。			

選択科目 No.Ⅲ—4 1 【耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学講義】

担当教員	教授 北原 紘 病院教授 上村 裕和・西村忠己		
実施時間	通年 火曜日 18:00～20:00	受入人数	2人
実施場所	耳鼻咽喉科医局	単位数	2単位
評価方法	実習 30%、レポート 70%		
一般教育目標 耳鼻咽喉・頭頸部外科学領域の最新知見を習得し、その問題点を理解する。			
個別行動目標 ・ 難聴の診断・治療についての最新の知見を理解し、超音波補聴システムの開発など最先端の研究にふれる。 ・ 頭頸部癌の発癌とその制御法について、シャペロン治療などの最新の知見を考える。 ・ めまい・平衡障害発症の要因を理解し、その治療法の最前線に接する。			

選択科目 No.Ⅲ—4 2 【耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学演習】

担当教員	教授 北原 紘 病院教授 上村 裕和・西村忠己		
実施時間	火・木曜日 9：00～12：00、 13：00～16：00	受入人数	2人
実施場所	耳鼻咽喉科検査室 手術室	単位数	2単位
評価方法	実習 30%、レポート 70%		
一般教育目標 耳鼻咽喉・頭頸部外科手術、感覚器医学的検査を習得する。 個別行動目標 ・ 聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚に関する検査を習得する。 ・ 耳科手術、鼻科手術、咽喉頭手術、頭頸部手術を習得する。 ・ マイクロサージェリーを習得する。 ・ 内視鏡検査を習得する。			

選択科目 No.Ⅲ—4 3 【画像診断・低侵襲治療学講義】

担当教員	教授 田中利洋 准教授 西尾福英之 准教授 市橋成夫		
実施時間	通年 不定期 年4～5回 18:30～20:00	受入人数	5人
実施場所	放射線診断・IVR 学医局、研究室、病院会議室	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 50% レポート 50%		
症例検討会・抄読会			
・ 画像診断と IVR の基礎を理解するとともに、最近の知見を得る。 ・ 画像診断の適応を理解し、基本的な読影ができる。 ・ 画像診断・IVR に関する最近の動向を把握できる。			

選択科目 No.Ⅲ—4 4 【画像診断・低侵襲治療学演習】

担当教員	教授 田中利洋 准教授 西尾福英之 准教授 市橋成夫		
実施時間	通年 不定期 年 4～5 回 18:30～20:00	受入人数	5 人
実施場所	放射線診断・IVR 学医局、研究室、病院会議室	単位数	2 単位
評価方法	口頭試問 50% レポート 50%		
デイリーカンファレンス・術前カンファレンス			
・ 画像診断と IVR の基礎的知識を修得し、理解を深める。 ・ 各種画像診断法の診断的役割を理解し、基本的な読影ができる。 ・ IVR の方法および副作用を理解し、病態に適した IVR の方法を選択することができる。 ・ IVR 前後の患者の病態を把握し、基本的な処置が行える。			

選択科目 No.Ⅲ—4 5 【放射線腫瘍学講義】

担当教員	教授 磯橋 文明 准教授 浅川勇雄		
実施時間	通年 火曜日 20:00～21:00	受入人数	4人
実施場所	放射線腫瘍医学医局	単位数	2単位
評価方法	受講態度 10% レポート 90%		
一般教育目標 腫瘍学全般および放射線腫瘍学の概要について、特に放射線生物学、放射線物理学等の基礎医学的内容、および臨床腫瘍学、放射線治療学等の臨床的内容の理解を深め、修得する。			
個別行動目標 1 腫瘍全般の分類、病理学、分子生物学の概要を理解する。 2 放射線生物学、放射線物理学の基礎を理解し、修得する。 3 臨床腫瘍学、癌治療学の概要を理解し、修得する。 4 放射線腫瘍学の概要、標準治療、先端治療について理解し、修得する。			

選択科目 No.Ⅲ—4 6 【放射線腫瘍学演習】

担当教員	教授 磯橋 文明 准教授 浅川勇雄		
実施時間	通年 火曜日 8:00～9:00	受入人数	4人
実施場所	放射線治療科外来カンファレンス室	単位数	2単位
評価方法	受講態度 10% レポート 90%		
一般教育目標 放射線腫瘍学の実践について、特に放射線生物学、放射線物理学、放射線治療学、臨床腫瘍学等についての理解を深め、放射線治療の原則、放射線治療計画等の演習をおこない、修得する。 個別行動目標 1 臨床腫瘍学における放射線腫瘍学の位置づけと放射線治療の適応について修得する。 2 放射線治療の原則と治療可能比について修得する。 3 放射線治療技術と治療計画の実践について演習をおこない、修得する。 4 放射線腫瘍学の進歩と新しい治療法への取り組みについて演習をおこない、修得する。			

選択科目 No.Ⅲ—4 7 【侵襲制御・生体管理医学講義】

担当教員	教授 川口昌彦 准教授 恵川淳二 講師 林浩伸 講師 内藤祐介		
実施時間	通年 講義：第 3 火曜日 17：30～18：30	受入人数	2 人
実施場所	C 棟手術部カンファレンス	単位数	2 単位
評価方法	レポート 100%		
一般教育目標 麻酔科学の分野を中心に関連領域の幅広い学習を行い、麻酔・蘇生学領域の知識・理論・技術を修得する。			
個別行動目標 学位公聴会の聴講、医局会、抄読会の出席により			
1 最適な麻酔管理を行える知識・技術を修得する。			
2 生体監視法の理念を理解し、その使用法・評価法を習得する。			
3 呼吸器・循環器を中心とする各種臓器機能不全症の管理治療法を習得する。			
4 急性痛、慢性痛を治療するための知識・技術を習得する。			

選択科目 No.Ⅲ—4 8 【侵襲制御・生体管理医学演習】

担当教員	教授 川口昌彦		
実施時間	通年 8：30～17：15	受入人数	2人
実施場所	中央手術部	単位数	2単位
評価方法	レポート100%		
一般教育目標 麻酔科学の分野を中心に関連領域の幅広い学習を行い、麻酔・蘇生学領域の知識・理論・技術を修得する。 個別行動目標 学位公聴会の聴講、医局会、抄読会、学会等での発表により 1 最適な麻酔管理を行える知識・技術を修得する。 2 生体監視法の理念を理解し、その使用法・評価法を習得する。 3 呼吸器・循環器を中心とする各種臓器機能不全症の管理治療法を習得する。 4 急性痛、慢性痛を治療するための知識・技術を習得する。			

選択科目 No.Ⅲ—4 9 【臨床神経モニター学講義】

担当教員	教授 川口昌彦 教授 中川一郎 講師 林浩伸 講師 重松英樹			
実施時間	通年 第1月曜日 18:00~19:00		受入人数	5人
実施場所	C棟手術部カンファランス室		単位数	2単位
評価方法	レポート100%			
術中神経モニターに関する症例検討、講義、抄読会。また、上記日程に加え年1回開催する奈良術中神経モニター講習会への参加も必要とする。				

選択科目 No.Ⅲ—5 0 【臨床神経モニター学演習】

担当教員	教授 川口昌彦 教授 中川一郎 講師 林浩伸 講師 重松英樹			
実施時間	通年 8:30~17:15		受入人数	5人
実施場所	中央手術部		単位数	2単位
評価方法	レポート100%			
術中神経モニターに関する症例検討、講義、抄読会。各症例における術中神経モニターの変化の解釈や問題点を議論するとともに、経験した症例の提示も実践する。				

選択科目 No.Ⅲ—5 1 【総合臨床病態学講義】

担当教員	教授 吉本 清巳 准教授 矢田憲孝 講師 大野史郎		
実施時間	通年 金曜日 17：00～19：00	受入人数	2人
実施場所	総合医療学医局	単位数	2単位
評価方法	10点満点として、口頭質問に対する回答により判断する		
一般教育目標			
実践に必要な総合診療に関する知識を習得する。			
個別行動目標			
1 生体情報を総合的に収集し、整理・活用することができる。			
2 複数臓器にわたる疾患について、病態を的確に把握し、適切な治療を選択できる。			
3 アメリカ家庭医などの英文雑誌の購読を通じて、実際の医療を学ぶ。			

選択科目 No.Ⅲ—5 2 【総合臨床病態学演習】

担当教員	教授 吉本 清巳 准教授 矢田憲孝 講師 大野史郎		
実施時間	通年 月曜日 17：00～19：00	受入人数	2人
実施場所	総合医療学医局	単位数	2単位
評価方法	10点満点として、口頭質問に対する回答により判断する		
一般教育目標			
地域医療実践中の臨床的問題点について、病態の解明と対策ができる能力を養う。			
個別行動目標			
1 問題点の的確な把握と、病態解析のための検査を選択ができる。			
2 治療など、問題点の解決に向けての方略を組み立てることができる。			
3 問題点解決に必要な研究テーマを挙げることができる。			

選択科目 No.Ⅲ—5 3 【口腔・顎顔面機能制御医学講義】

担当教員	准教授 山川延宏 講師 柳生貴裕		
実施時間	通年 木曜日 17：00～19：00	受入人数	2人
実施場所	口腔外科医局	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 50%、レポート 50%		
口腔悪性腫瘍および口腔顎顔面再建に関する基礎的知識の習得と最新の知見の把握。 口腔顎顔面外傷についての基礎的知識の習得と治療の実際についての要点の把握。 口腔粘膜疾患についての基礎的知識の習得と診断に関する最新知見の習得。 顎骨疾患に関する最新知見の把握と治療法の習得。 顎関節症の発症機序と咬合のメカニズムについての習得。			

選択科目 No.Ⅲ—5 4 【口腔・顎顔面機能制御医学演習】

担当教員	准教授 山川延宏 講師 柳生貴裕		
実施時間	通年 水曜日 17：00～19：00	受入人数	2人
実施場所	口腔外科医局	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 50%、レポート 50%		
症例検討会、抄読会			
一般教育目標			
医師に必要な口腔顎顔面領域の疾患および口腔機能傷害に関する知識とその診断方法を理解、習得する。			
個別行動目標			
口腔顎顔面外科全般についての基礎的知識の習得と最新知見の把握。			

選択科目 No.Ⅲ—5 5 【救急病態制御医学講義】

担当教員	教授 福島英賢		
実施時間	通年 水曜日 8：30～9：30	受入人数	2人
実施場所	高度救命センターカンファレンスルーム	単位数	2単位
評価方法	口頭試問（100%）		
一般教育目標			
救急医療を行なうために必要な臨床とシステム理論を理解する			
個別行動目標			
1 救急患者の病態を把握し、応急処置を行なうことができる			
2 標準化された心肺蘇生、外傷治療の方法論を活用することができる			
3 救急医療のシステムを理解し、運用することができる			

選択科目 No.Ⅲ—5 6 【救急病態制御医学演習】

担当教員	教授 福島英賢		
実施時間	通年 水曜日 8：30～9：30	受入人数	2人
実施場所	高度救命センターカンファレンスルーム	単位数	2単位
評価方法	口頭試問（100%）		
一般教育目標			
カンファレンスに出席し救急医療を行うために必要な診断と治療を理解する			
個別行動目標			
1 救急患者の問題点を適確に把握し、治療法の選択ができる			
2 標準化された心肺蘇生、外傷治療を行なうことができる			
3 救急医療のシステムを運用することができる			

選択科目 No.Ⅲ—5 7 【病理診断学講義】

担当教員	教授 吉澤 明彦		
実施時間	通年 水曜日 17:00～18:00	受入人数	数人
実施場所	臨床研修センター	単位数	2単位
評価方法	CPC 出席 50%, レポート 50%		
一般教育目標			
病理診断学の基礎的事項を修得し、疾患の理解をつかめる。			
個別行動目標			
1 生検、細胞診、外来的切除材料診断、迅速診断、病理解剖、CPC について説明することができる。			
2 病理学的診断が治療診断や予後予測に重要な役割を果たしていることを理解する。			
3 病理診断を行う上で、臨床情報や時には臨床医との十分な意思疎通が必要であることを理解する。			

選択科目 No.Ⅲ—5 8 【病理診断学演習】

担当教員	教授 吉澤 明彦		
実施時間	通年 金曜日 13：00～16：00	受入人数	4人
実施場所	病理診断学討議室	単位数	2単位
評価方法	CPC 出席 50%，レポート 50%		
一般教育目標			
病理診断の実際を学ぶ。			
個別行動目標			
1 種々の疾患の特徴的病理像とそれに対応する臨床像を理解する。			
2 肉眼的観察、顕微鏡的観察といった病理診断の進め方を理解する。			
3 診断に必要な免疫染色、FISH などの検査方法を理解する。			

選択科目 No.Ⅲ—5 9 【腫瘍薬物治療学講義】

担当教員	教授 武田真幸		
実施時間	通年 木曜日 18：00～19：30	受入人数	3人
実施場所	腫瘍内科医局	単位数	2単位
評価方法	レポート 100%		
講義概要			
一般教育目標			
固形癌の病態について理解を深め、EBM 実践の基礎知識を習得する。			
個別行動目標			
1 固形癌の病態を理解する。			
2 進行固形癌の標準薬物治療を理解し、説明できる。			
3 薬物治療の副作用について理解し、説明ができる。			

選択科目 No.Ⅲ—6 0 【腫瘍薬物治療学演習】

担当教員	教授 武田真幸		
実施時間	通年 月曜日 18：00～19：30	受入人数	3人
実施場所	腫瘍内科医局	単位数	2単位
評価方法	レポート 100%		
演習概要			
一般教育目標			
固形癌の病態について理解を深め、医科学研究の発表・討論の基礎を習得する。			
個別行動目標			
1 癌の発生・進展・予後に関する分子機構の知識を習得する。			
2 ゲノム医療で同定される新規遺伝子変異の機能解析ができる。			
3 ドライバー陽性腫瘍に於ける耐性機序について説明ができる。			
4 臓器横断的な新薬開発のための基礎知識を習得する。			
5 ゲノム薬理学的研究のための基礎知識を習得する。			
6 支持・緩和領域の標準化に資する研究を考察する。			

選択科目 No.Ⅲ—6 1 【リハビリテーション医学講義】

担当教員	教授 城戸顕 准教授 稲垣有佐 講師 石田由佳子		
実施時間	通年 木曜日 16：00～17：30	受入人数	1～2人
実施場所	リハビリテーション科カンファレンス室	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 100%		
一般教育目標 リハビリテーション医学の基礎的事項を習得し、「活動の障害」の診断・治療概念を理解する。			
個別行動目標 1 障害の階層性、リハビリテーション診断・治療について説明することができる。 2 リハビリテーション診断・治療が原病の治療経過や予後に重要な役割を果たしていることを理解する。 3 リハビリテーション診断・治療を行う上で、原病制御の理解や主診療科医師、リハビリテーション関連専門職との意思疎通が重要であることを理解する。			

選択科目 No.Ⅲ—6 2 【リハビリテーション医学演習】

担当教員	教授 城戸顕 准教授 稲垣有佐 講師 石田由佳子		
実施時間	通年 金曜日 17：30～19：00	受入人数	1～2人
実施場所	リハビリテーション科カンファレンス室	単位数	2単位
評価方法	口頭試問 100%		
一般教育目標			
リハビリテーション医学領域の診断・治療の理論と実績を学ぶ。			
個別行動目標			
1 種々の疾患の特徴的障害像とそれに対応する臨床像を障害の階層性に沿って理解する。			
2 理学所見、神経学的所見を基盤とする障害診断の進め方を習得する。			
3 リハビリテーション診断・処方・治療効果の判定に必要な臨床検査、画像検査の理論と実践を修得する。			
4 リハビリテーション医学領域の基礎的・臨床的エビデンスを収集し発表する。			
5 リハビリテーション医学領域の研究を行いその成果を発表する。			

選択科目 No.Ⅲ—6 3 【臨床検査医学講義】

担当教員	病院教授 山崎正晴		
実施時間	通年 毎月第3木曜日 17:00～19:00	受入人数	2人
実施場所	中央臨床検査部技局	単位数	2単位
評価方法	小テスト:20%、レポート:80%		
一般教育目標 病態情報解析についての基本的な知識・技術を学ぶ。 個別行動目標 1 検査データの生理的変動因子, アーチファクト, 病態生理学的意義を理解できる。 2 臨床化学および分子生物学的な解析方法を学習する。 3 検査データの統計情報学的処理方法を学習する。			

選択科目 No.Ⅲ—6 4 【臨床検査医学演習】

担当教員	病院教授 山崎正晴		
実施時間	通年 毎週月曜日 17：00～19：00	受入人数	2人
実施場所	中央臨床検査部	単位数	2単位
評価方法	小テスト：20%、レポート：80%		
一般教育目標 病態情報解析のために必要な情報を自ら集めることができる。			
個別行動目標			
1 文献やインターネットから情報を検索し、紹介できる。			
2 病態の解析について意見が述べられる。			
3 研究の意義が理解できる。			

選択科目 No.Ⅲ—6 5 【血液・血流機能再建医学講義】

担当教員	教授 松本雅則 講師 酒井和哉			
実施時間	通年 水曜日 16：00～17：00		受入人数	2人
実施場所	輸血部 研究室		単位数	2単位
評価方法	口頭試問 100%			
一般教育目標 正常循環動態を保つに必要な血液・血流機能の分子機構解釈 個別行動目標 ・ 正常循環維持に必要な、血液、血管、そして血流（Vichow の3原則）の分担機能理解 ・ Vichow 3原則の破綻に伴う病的血栓形成の理解 ・ 正常循環維持に必要な血液成分補充療法の理解 ・ 形成された血栓に対する治療法選択の理解 ・ 同種あるいは自家骨髄由来の単核球分画による障害された骨髄、血管、心筋の再建				

選択科目 No.Ⅲ—6 6 【血液・血流機能再建医学演習】

担当教員	教授 松本雅則 講師 酒井和哉		
実施時間	通年 金曜日 17：00～19：00	受入人数	2人
実施場所	輸血部 研究室	単位数	2単位
評価方法	実習 100%		
一般教育目標 血液・血流機能評価解析手法の習得 個別行動目標 ・ VWF と同切断酵素（ADAMTS13）を標的にした血小板血栓形成機構の解析手法習得 ・ 血管内皮細胞障害を予知するマーカーの解析手法習得 ・ 骨髄血、末梢血、そして臍帯血由来の造血・血管幹細胞の採取、濃縮、そして移植の技術習得			

選択科目 No.Ⅲ—6 7 【感染病態制御医学講義】

担当教員	教授 笠原敬		
実施時間	通年 月曜日	受入人数	2人
実施場所	感染症内科学講座医局または研究室、またはオンライン	単位数	2単位
評価方法	レポート 100%		
一般教育目標			
感染症の病態や制御に関する知識を体系的に習得し、臨床および研究に応用する能力を養う			
個別行動目標			
1 感染症の病態生理や発症メカニズムを専門的に説明できる。			
2 症例を通じて感染症診断のプロセスを論理的に考察・構築できる。			
3 抗菌薬の作用機序や適正使用について、最新の知見に基づいて説明できる。			

選択科目 No.Ⅲ—6 8 【感染病態制御医学演習】

担当教員	教授 笠原敬		
実施時間	通年 木曜日	受入人数	2人
実施場所	感染症内科学講座医局または研究室、またはオンライン	単位数	2単位
評価方法	レポート 100%		
一般教育目標			
実践的な演習を通じて、感染制御に必要な知識とスキルを深め、現場で活用できる能力を養成する			
個別行動目標			
1 臨床データを分析し、感染症の診断や治療方針を合理的に立案できる。			
2 微生物検査を適切に行い、その結果を正確に解釈し治療に活用できる。			
3 院内感染予防策を現場に即した形で設計し、実際の運用に結びつけられる。			

選択科目 No.Ⅲ—6 9 【臨床実証医学講義】

担当教員	教授 笠原正登 准教授 浅田潔 講師 倉上弘幸 講師 武内治郎 特任講師 酒井恭子		
実施時間	通年 月曜 9：30～12：00	受入人数	2人
実施場所	臨床研究センター	単位数	2単位
評価方法	授業態度 50% 口頭試問 50%		
一般教育目標 臨床研究における基礎的知識と方法論を学ぶ 個別行動目標 1 臨床研究立案における基本的知識を身につける 2 臨床研究実施体制構築の知識を身につける 3 臨床試験の結果報告の知識を身につける			

選択科目 No.Ⅲ—7 0 【臨床実証医学演習】

担当教員	教授 笠原正登 准教授 浅田潔 講師 倉上弘幸 講師 武内治郎 特任講師 酒井恭子		
実施時間	通年 月曜 13：00～17：00	受入人数	2人
実施場所	臨床研究センター	単位数	2単位
評価方法	授業態度 50% 口頭試問 50%		
一般教育目標 臨床研究における基礎的知識と方法論を学ぶ 個別行動目標 1 臨床研究支援を目的にしたマネジメント能力の修得 2 臨床研究体制におけるGCPの理解 3 エビデンス構築のノウハウを確立			

選択科目 No.Ⅲ—7 1 【先端画像下治療開発応用学講義】

担当教員	招聘教授 穴井洋		
実施時間	通年 金曜日 18 時～	受入人数	2 人
実施場所	市立奈良病院 IVR 研究センター	単位数	2 単位
評価方法	口頭試問を中心に適宜課題レポートの提出などによる評価を行う（100%）		
一般教育目標 画像診断を用いた低侵襲治療である画像下治療（Interventional Radiology、IVR）の最近の知見について学習する。			
個別行動目標			
① 画像下治療を行うのに必要な画像診断について理解する。			
② 画像下治療の基本手技について理解する。			
③ 画像下治療に必要な用具（カテーテルや穿刺針、各種デバイス、塞栓材料など）について基本的な性能や使用法について理解する。			
④ 画像下治療の実際の適応、成績、合併症について理解する。			
⑤ 画像下治療の問題点について理解し考察する。			

選択科目 No.Ⅲ—7 2 【先端画像下治療開発応用学演習】

担当教員	招聘教授 穴井洋		
実施時間	通年 金曜日 18 時～	受入人数	2 人
実施場所	市立奈良病院 IVR 研究センター	単位数	2 単位
評価方法	口頭試問を中心に適宜課題レポートの提出などによる評価を行う（100%）		
一般教育目標 画像診断を用いた低侵襲治療である画像下治療（Interventional Radiology、IVR）の実際の手技や術前の治療計画立案、術後治療評価について実行性妥当性を検証する。そのうえで新規方法を模索する。			
個別行動目標			
① 外科治療、内科治療などほか治療を含めた画像下治療の役割と位置づけを理解する。			
② 画像下治療の実際について臨床例より学ぶ。			
③ 画像下治療に必要な用具（カテーテルや穿刺針、各種デバイス、塞栓材料など）について実際の使用例により理解する。			
④ 臨床例より画像下治療の問題点を洗い出し、改善点を考察する。			

選択科目 No.Ⅲ—7 3【陽子線腫瘍学講義】

担当教員	招聘教授 吉村均		
実施時間	通年 水曜日 17：30～18：30	受入人数	2人
実施場所	高槻会陽子線治療センター 治療計画室	単位数	2単位
評価方法	レポート100%		
一般教育目標			
腫瘍学全般および放射線腫瘍学の概要について、特に陽子線の放射線生物学、放射線物理学等の基礎医学的内容、臨床腫瘍学、放射線治療学等の臨床的内容の理解を深め、修得する。			
個別行動目標			
1 腫瘍全般の分類、病理学、分子生物学の概要を理解する。			
2 放射線生物学、放射線物理学の基礎を理解し、修得する。			
3 臨床腫瘍学、癌治療学の概要を理解し、修得する。			
4 放射線腫瘍学の概要、標準治療、先端治療について理解し、修得する。			
5 陽子線の X 線との違いを、放射線物理学、放射線生物学の面から理解し、修得する。			

選択科目 No.Ⅲ—7 4【陽子線腫瘍学演習】

担当教員	招聘教授 吉村均		
実施時間	通年 水曜日 18:30~19:30	受入人数	2人
実施場所	高槻会陽子線治療センター 治療計画室	単位数	2単位
評価方法	レポート100%		
一般教育目標 放射線腫瘍学の実践について、特に陽子線の放射線生物学、放射線物理学、放射線治療学、臨床腫瘍学等についての理解を深め、放射線治療の原則、放射線治療計画等の演習をおこない、修得する。			
個別行動目標 1 臨床腫瘍学における放射線腫瘍学の位置づけと放射線治療の適応について修得する。 2 放射線治療の原則と治療可能比について修得する。 3 陽子線治療技術と治療計画の実践について演習をおこない、X線での治療との違いなどを修得する。 4 放射線腫瘍学の進歩と新しい治療法への取り組みについて演習をおこない、修得する。			

選択科目 No.Ⅲ—7 5【医療センシング学講義】

担当教員	招聘教授 山本貢平 招聘准教授 児玉秀和		
実施時間	通年 平日 9：00～11：45／13：00～17：00	受入人数	1人
実施場所	(一財) 小林理学研究所 圧電物性デバイス研究室	単位数	2単位
評価方法	・学位論文（第一筆頭著書） ・参考論文（1編以上 第一筆頭著書・共著どちらでも可）		
難聴者にとって補聴器は必要不可欠である。本講座ではさまざまな種類の補聴器について、気導音、骨伝導音、軟骨伝導といった聴覚の機構について理解を深める。さらに、補聴器の問題点、要求される性能、IOT を活用した生体信号のセンシング等、新たな付加機能とその実現方法について最近の研究成果の動向をレビューする。			

選択科目 No.Ⅲ—7 6【医療センシング学演習】

担当教員	招聘教授 山本貢平 招聘准教授 児玉秀和		
実施時間	通年 平日 9:00~11:45/13:00~17:00	受入人数	1人
実施場所	(一財) 小林理学研究所 圧電物性デバイス研究室	単位数	2単位
評価方法	・学位論文(第一筆頭著書) ・参考論文(1編以上 第一筆頭著書・共著どちらでも可)		
1 補聴器の種類、構造、特性、問題点等の実験検証 2 骨伝導、軟骨伝導および気導音の機構と各種補聴器の評価方法 3 補聴器と電気音響変換器を組み合わせた生体信号検出と応用演習			

令和7年度 学位論文審査日程

回数	事項	論文提出締切	資格審査	予備審査	公聴会	本審査
第1回		令和7年3月7日(金)	令和7年3月31日(月)	令和7年4月8日(火)	令和7年5月14日(水) 令和7年5月15日(木)	令和7年6月10日(火)
第2回		令和7年6月6日(金)	令和7年6月30日(月)	令和7年7月8日(火)	令和7年8月5日(火) 令和7年8月6日(水)	令和7年9月9日(火)
第3回		令和7年9月5日(金)	令和7年9月29日(月)	令和7年10月14日(火)	令和7年11月12日(水) 令和7年11月13日(木)	令和7年12月9日(火)
第4回		令和7年12月5日(金)	令和8年1月5日(月)	令和8年1月13日(火)	令和8年2月16日(月) 令和8年2月18日(水) 令和8年2月19日(木)	令和8年3月3日(火)

